

HVM 管理コマンド(HvmSh) ユーザーズガイド

Revision 4.00

HITACHI

重要なお知らせ

- 本書の内容の一部、または全部を無断で転載したり、複製することは固くお断わりします。
- 本書の内容について、改良のため予告なしに変更することがあります。
- 本書の内容については万全を期しておりますが、万一ご不審な点や誤りなど、お気付きのことがありましたら、お買い求め先へご一報くださいますようお願いいたします。
- 本書に準じないで本製品を運用した結果については責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

登録商標・商標について

Microsoft、Windows、Windows Server は米国Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Pentium、Xeon は Intel Corporation の登録商標および商標です。

その他、本マニュアル中の製品名および会社名は、各社の商標または登録商標です。

著作権について

このマニュアルの内容はすべて著作権によって保護されています。このマニュアルの内容の一部または全部を、無断で転載することは禁じられています。

Copyright© Hitachi, Ltd. 2008, 2009. All rights reserved.

HvmSh コマンド

本資料は、HvmSh コマンドの操作方法について説明します。

目次

重要なお知らせ.....	ii
登録商標・商標について.....	ii
著作権について.....	ii
HvmShコマンドの概要.....	2
HvmShコマンドの動作条件.....	4
HvmShコマンドのインストール.....	4
HvmShコマンドのアンインストール.....	4
HvmShコマンドの利用方法.....	4
HvmShコマンドのネットワーク構成.....	5
HvmShコマンドの複数起動.....	6
コマンド形式.....	7
オプション.....	7
HVMインタフェース.....	8
出力形式.....	12
終了コード.....	13
戻り値.....	15
エラーメッセージ.....	16
HVMインタフェースの個別仕様.....	22
サポートマップ.....	69
バージョンアップ時の注意事項.....	70

HvmShコマンドの概要

HvmSh コマンドは、サーバ仮想化機構 Virtage (以下、本ユーザーズガイドでは Virtage のことを HVM(Hitachi Virtualization Manager)と表記します。)の HVM スクリーンで実行する HVM 操作を、Windows のコマンドラインから実行します。このコマンドにより、リモートのシステムから HVM のシステム情報を取得したり、スクリプト等のプログラムから LPAR の構成情報を設定することが可能となります。

HvmSh コマンドは、標準出力/標準エラー出力に実行結果を出力した後に動作を終了します。

HvmSh コマンドに必要なパラメータは、コマンドライン引数のオプションとして指定してください。オプションの指示には管理対象 HVM の HVM IP Address の指定などがあります。また、HVM の操作要求、定義設定要求、または定義/状態情報取得要求を表す HVM インタフェースを指定してください。HVM 内の処理に時間のかかる HVM インタフェースでは、受付情報(操作番号)を出力して終了します。

HvmShコマンドは、表 1のHVMスクリーンと同等の操作ができます。

表 1 HvmSh コマンドに対応する HVM スクリーン

HVM スクリーン名	説明
Logical Partition Configuration	LPAR の名称やプロセッサ数、メモリ容量などを設定します。また、各 LPARActivate(電源オン)、Deactivate(電源オフ)などを実行します。VC は HvmSh では対象外です。
Logical Processor Configuration	各 LPAR に対して論理プロセッサの設定を行います。
Physical Processor Configuration	物理プロセッサの構成や状態を表示します。
PCI Device Information	PCI デバイスの情報を表示します。
PCI Device Assignment	各 LPAR に対して PCI デバイスの割り当てを行います。
VNIC Assignment	各 LPAR に対して仮想 NIC の割り当てを行います。Prom. Mode は HvmSh では対象外です。
Shared FC Assignment	各 LPAR に対して共有モードの FC アダプタの割り当てを行います。
Allocated FC Information	実装されている FC アダプタの構成情報(WWN)を一覧表示します。
System Configuration	HVM のシステム構成表示を行います。設定はできません。
System Service State	HVM のサービス状態を示します。System Service の状態と、Hardware Component の状態は表示しません。また強制リカバリはできません。
Date and Time	HVM システム時刻を設定します。LPAR の SEL(System Event Log) 時刻を設定します。HvmSh コマンドでは、LPAR の RTC(Real Time Clock)時刻とシステム時刻の差分を設定します。Adjust LPAR Time は HvmSh では対象外です。
HVM Options	HVM のオプション機能を設定します。Pre-State Auto Activation、HVM Auto Shutdown、Take HVM Dump が対象です。
LPAR Usage	プロセッサの使用率を表示します。このスクリーンと同等の情報は、HvmGetPerf で表示できます。HvmSh では、プロセッサの他に NIC や HBA について表示することができます。
Front Panel	LPAR 上の OS ダンプ採取起動、LPAR のコンソールログ出力などを行います。HvmSh では対象外です。

HVM System Logs	HVM のイベントログを表示します。HvmSh では対象外です。
Firmware Version Information	BIOS、BMC、HVM、FC HBA のバージョンを表示します。HvmSh では対象外です。

HvmShコマンドの動作条件

HvmSh コマンドは、Windows Server 2003、Windows Server 2008、Windows XP、Windows VISTA（以降、Windows と呼ぶ）上で利用できます。

HvmSh コマンドは、仮想環境のサーバでも利用できます。

HvmShコマンドのインストール

HvmSh コマンドは、Windows のコマンドプロンプトで実行可能な形式で提供され、HVM Utility CD に格納されています。HvmSh コマンドを、実行する管理サーバの実行パスが設定されているディレクトリにコピーして使用してください。

HvmShコマンドのアンインストール

HvmSh.exe を削除してください。

HvmShコマンドの利用方法

HvmSh コマンドは、指定された HVM を操作し、指定された出力先に結果を出力して終了します。

補足

- HvmSh コマンド開始時に HVM と接続するネットワークが使用できない状態であれば、HvmSh コマンドは HVM コマンドを送信せずに直ちに終了します。
- VM からの応答待ちの間に HVM と接続するネットワークが使用できなくなると、HvmSh コマンドは直ちに終了します。
- HVM からの応答待ちでタイムアウトが発生した場合、HvmSh コマンドはリトライせずに終了します。

HvmShコマンドのネットワーク構成

HvmSh コマンドは、HVM の System Configuration スクリーンの BSM1 IP Address～BSM4 IP Address に登録されている IP アドレスが設定されている管理サーバから利用できます。BSM IP Address に設定されていない管理サーバから HvmSh コマンドを実行しても HVM は HvmSh コマンドを無視します。なお、BSM IP Address に設定された管理サーバでは JP1/SC/BSM が動作していることを推奨します。

HVM の BSM IP アドレスは IPv4 に限定されており、設定方法については、BladeSymphony BS2000 ユーザーズガイド、BladeSymphony BS320 ユーザーズガイド、または BladeSymphony BS1000 ユーザーズガイドを参照してください。

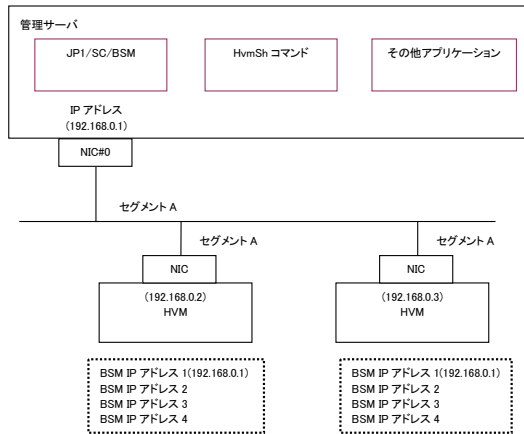


図 1 管理サーバと HVM とのネットワーク接続(推奨)

管理サーバが複数セグメントに接続されるネットワーク構成では、HvmSh コマンドで使用する管理サーバ側 NIC のポートの IP アドレスを HvmSh コマンドの `-scrip` オプションで指定してください。Windows のルーティング機能で代用することも可能ですが、この場合は HVM の個数だけルートを登録してください。

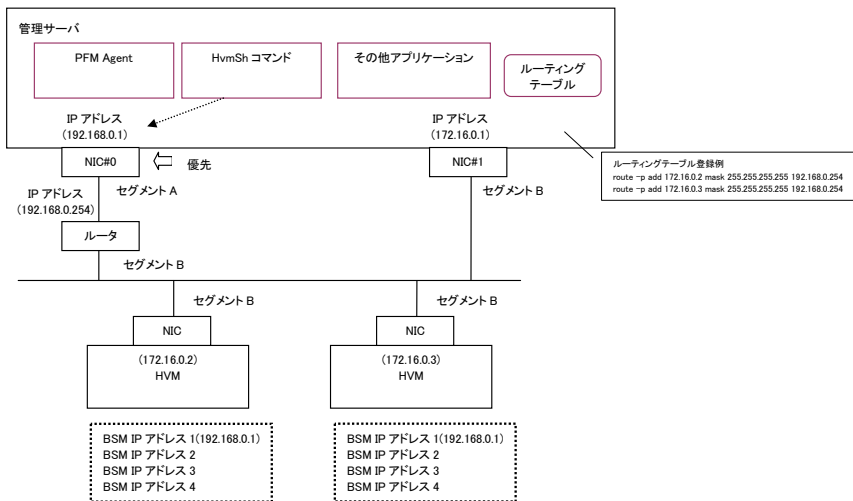


図 2 複数セグメントの管理サーバと HVM とのネットワーク接続

HvmShコマンドの複数起動

複数の HvmSh コマンドを同時に動作させることができます。

同時に起動する HvmSh コマンドの数が多くなると(例えば 10 個以上)、管理サーバの負荷とHVM の負荷が増加し、幾つかの HvmSh コマンドは HVM との接続に失敗してエラーで終了する場合があります。接続に失敗しないためには、

- HvmSh コマンドの 1 回当たりの動作時間を 0.2 秒
- 1 つの HvmSh コマンドの起動のインターバル時間を t 秒
- HvmSh コマンドの多重起動数を c 個

とした場合、 $c < (t \div 0.2)$ になるようにしてください。複数の管理サーバから HvmSh コマンドを起動する場合、それぞれの管理サーバ当たり、 $c/2$ を超えないようにしてください。

HvmSh コマンドの 1 回当たりの動作時間はネットワークの状態に影響されることを留意し、HvmSh コマンドを複数起動する場合は、

- 管理サーバのリソースに余裕があること
- HvmSh コマンドがエラーにならないこと

を確認しながら、HvmSh コマンドの数を順次増やしていくことを推奨します。エラーが発生するようであれば、同時起動する HvmSh コマンドの数を減らしてください。

コマンド形式

HvmSh コマンドは、以下のように実行します。

```
HvmSh { Δ1-host=IP アドレス [ Δ1-srcip=IP アドレス ] [ Δ1-timeout=タイムアウト時間(秒) ] Δ1HVM  
インタフェース  
| Δ1-list[={opr | get | set}] }
```

説明中の太字部分は、値や名称の文字列を指定することを意味します。

Δ¹は、1 つ以上の空白を示します。

[A | B | C]は、「A、B または C の何れかを選択」を意味します。

[]で囲まれたオプションやコマンド引数は「省略可能」を意味します。複数の項目が記述されている場合には、すべてを省略するか、どれか一つを選択します。

[...]は省略または一つ以上のパラメータを意味します。指定するパラメータの順序に制限はありません。同一のオプションを指定した場合は、最後のオプションが有効になります。

空白で区切られる各文字列長は 127(HvmSh コマンドのバージョンが 4.0 以降では 1,024)文字まで指定できます。この制限を超えた文字列が指定されると、オプションエラーとなります。

入力文字列の大文字と小文字は区別しません。

オプション

表 2にHvmShコマンドのオプションを示します。

表 2 HvmSh コマンドのオプション説明

オプション	説明
-host= IP アドレス	操作する HVM の HVM IP アドレスを指定します。ピリオド(".")で区切られた 10 進数の形式で指定してください。必須のパラメータです。 例) 192.168.0.22 HvmSh コマンドは、HVM との通信で以下のポートを使用します。 <ul style="list-style-type: none">• プロトコル : UDP• ポート番号 : 623• 通信の種類 : ユニキャスト• 暗号化 : 未使用
-srcip= IP アドレス	HVM と通信する際に使用する管理サーバ側の IP アドレス(通信元の IP アドレス)を指定します。 管理サーバが複数セグメントに接続されるネットワーク構成で使用する場合は、HvmSh コマンドで使用する IP アドレスを固定する場合に指定します。

-timeout= タイムアウト時間	HVM からの応答待ちでタイムアウトを検出するまでの時間を 1~3600 の秒単位で指定します。指定しない場合は、30 秒のタイムアウトが設定されます。0 を指定したときには、HvmSh コマンドはタイムアウトせずに、HVM からの応答を待ち続けます。
-list[={opr get set}]	HvmSh コマンドが提供している HVM インタフェース一覧と HvmSh コマンドのバージョンを出力します。 list オプションは、他のオプションと同時に指定できません。 引数で HVM インタフェースのキーワード (opr または get または set) を指定すると、指定のキーワードに絞って HVM インタフェースを出力します。

HVM インタフェース

HVM インタフェースは、HVM に渡す要求を記述する部分です。1 コマンドで1つの HVM インタフェースを指定できます。

表 3にHVMインタフェース一覧を示します。

表 3 HVM インタフェース一覧

HVM インタフェース			説明	関連スクリーン
opr	LPARAdd	lpar= LPAR 番号	LPAR 定義追加	Logical Partition Configuration
opr	LPARRemove	lpar= LPAR 番号	LPAR 定義削除	
opr	Activate	lpar= LPAR 番号	LPAR を Activate	
opr	Deactivate	lpar= LPAR 番号	LPAR を Deactivate	
opr	Reactivate	lpar= LPAR 番号	LPAR を Reactivate	
opr	SaveConfig		構成情報保存	
get	LPARName	lpar= LPAR 番号	LPAR 名取得	
set	LPARName	lpar= LPAR 番号 lparname= LPAR 名	LPAR 名設定	
get	LPARStatus	lpar= LPAR 番号	LPAR ステータスの取得	
get	LPARShrProc	lpar= LPAR 番号	共有モードの論理プロセッサ数取得	
set	LPARShrProc	lpar= LPAR 番号 shrproc= 共有モードの論理プロセッサ数	共有モードの論理プロセッサ数設定	
get	LPARDedProc	lpar= LPAR 番号	占有モードの論理プロセッサ数取得	
set	LPARDedProc	lpar= LPAR 番号 dedproc= 占有モードの論理プロセッサ数	占有モードの論理プロセッサ数設定	
get	LPARSrv	lpar= LPAR 番号	サービス時間の配分情報取得	
set	LPARSrv	lpar= LPAR 番号 lparsrv= LPAR のサービス時間の配分	サービス時間の配分設定	
get	LPARMem	lpar= LPAR 番号	LPAR に割り当てるメモリ容量取得	

HVM インタフェース			説明	関連スクリーン
set	LPARMem	lpar= LPAR 番号 lparmem= LPAR に割り当てるメモリ容量 (MB)	LPAR に割り当てるメモリ容量設定	
get	LPARVNICCount	lpar= LPAR 番号	割り当てられた仮想 NIC 数取得	
get	LPARID	lpar= LPAR 番号	論理プロセッサアイドル検出機能の有効無効取得	
set	LPARID	lpar= LPAR 番号 lparid={Yes No}	論理プロセッサアイドル検出機能の有効無効設定	
get	LPARAA	lpar= LPAR 番号	自動 Activate 情報取得	
set	LPARAA	lpar= LPAR 番号 lparaa= 自動 Activate 情報	自動 Activate 設定	
get	LPARAC	lpar= LPAR 番号	論理 SEL の自動クリア機能の有効無効取得	
set	LPARAC	lpar= LPAR 番号 lparac={Yes No}	論理 SEL の自動クリア機能の有効無効設定	
get	LPARPC	lpar= LPAR 番号	プロセッサキャッピング機能の有効無効取得	
set	LPARPC	lpar= LPAR 番号 lparpc={Yes No}	プロセッサキャッピング機能の有効無効設定	
get	LPARPB	lpar= LPAR 番号	Pre-boot ファームウェア選択情報取得	
set	LPARPB	lpar= LPAR 番号 lparpb={ BIOS 64UEFI }	Pre-boot ファームウェア選択	
get	SystemMemSize		LPAR に割り当て可能なメモリの総量の取得	
get	SystemMemAlloc		メモリの割り当て状況の取得	
get	LPARLProc	lpar= LPAR 番号 lprocno= 論理プロセッサ番号	論理プロセッサ割り当て情報取得	Logical Processor Configuration
set	LPARLProc	lpar= LPAR 番号 lprocno= 論理プロセッサ番号 lproctype={D 物理プロセッサ番号 }	論理プロセッサの割り当て	
get	SystemPProc	pprocno= 物理プロセッサ番号	物理プロセッサ状態の取得	Physical Processor Configuration
get	LPARPCI	lpar= LPAR 番号 pcino= PCI デバイス番号	PCI デバイスの割り当て情報取得	PCI Device Information および PCI Device Assignment
set	LPARPCI	lpar= LPAR 番号 pcino= PCI デバイス番号 pciassign={Assign Attach Detach *}	PCI デバイスの割り当て	
get	SystemPCI	pcino= PCI デバイス番号	PCI デバイス情報取得	
get	SystemConfig		システム構成情報取得	System Configuration
get	LPARVNICID	lpar= LPAR 番号 vnicno= VNIC 番号	VNIC ネットワークセグメント情報取得	VNIC Assignment

HVM インタフェース			説明	関連スクリーン
set	LPARVNICID	lpar= LPAR 番号 vnicno= VNIC 番号 、{ 仮想 NIC または共有 NIC のネットワークセグメントの識別子 [*]} [... vnicno= VNIC 番号 、{ 仮想 NIC または共有 NIC のネットワークセグメントの識別子 [*]}]	VNIC ネットワークセグメントの設定	
get	LPARVNICMac	lpar= LPAR 番号 vnicno= VNIC 番号	VNIC の Mac アドレス情報取得	
set	LPARVNICMac	lpar= LPAR 番号 vnicno= VNIC 番号 、 仮想 NIC または共有 NIC のネットワークセグメントの識別子 mac= MAC アドレス	VNIC の Mac アドレスの設定	
get	LPARVNICVlan	lpar= LPAR 番号 vnicno= VNIC 番号	VNIC の VLAN 情報取得	
set	LPARVNICVlan	lpar= LPAR 番号 vnicno= VNIC 番号 、 仮想 NIC または共有 NIC のネットワークセグメントの識別子 vlanmode={Tag UnTag Undef} [vlanid= VlanId 、...、 VlanId]	VNIC の VLAN 設定	
get	LPARSFC	lpar= LPAR 番号 sfcno= 共有 FC 番号	共有 FC の割り当て情報取得	Shared FC Assignment
set	LPARSFC	lpar= LPAR 番号 slotno= スロット番号 portno= ポート番号 vfcid= SfcVfcID	共有 FC の割り当て	
get	LPARSelTime	lpar= LPAR 番号	SEL 時刻の取得	Date and Time
set	LPARSelTime	lpar= LPAR 番号 [seltime= SEL 時刻] [mode={GMT Local-Time}] [zone= タイムゾーン]	SEL 時刻設定	
get	SystemTime		HVM システム時刻の取得	
get	OptPreState		Pre-State Auto Activation オプション取得	HVM Options
set	OptPreState	prestate={Yes No}	Pre-State Auto Activation オプション設定	
get	OptAutoSd		HVM Auto Shutdown オプション取得	
set	OptAutoSd	autosd={Yes No}	HVM Auto Shutdown オプション設定	
get	SystemSNIC	segment= 共有 NIC 番号 portid={a b}	共有 NIC の状態の取得	System Service State
get	SystemLANSeg	segment={V 共有 NIC 番号 } portid={a b c d}	仮想 LAN セグメント状態の取得	
get	LPARDedFC	lpar= LPAR 番号	占有 FC の割り当て情報取得	Allocated FC Information
get	SystemFC		FibreChannel アダプタの構成情報の取得	
get	SystemVNICA	segment={V 共有 NIC 番号 } portid={a b c d}	仮想 NIC の DMA エンジン利用可否情報取得	なし

HVM インタフェース		説明	関連スクリーン
getResult	accept=操作番号	HVM インタフェースの実行結果取得	なし
get LPARGeneration	lpar=LPAR 番号	世代番号の取得	なし
get Versions		HVM コマンド情報取得	なし
get ActInhibit	lpar=LPAR 番号	LPAR 起動抑止情報取得	なし
set ActInhibit	lpar=LPAR 番号 inhibit={yes no}	LPAR 起動抑止情報の設定	なし
get RelativeSlot		相対スロット番号取得	なし
get VfcWWN	vfcslot=相対スロット番号 portno=ポート番号 vfcid=SfcVfcID	vfcWWN 取得	なし
set VfcWWN	vfcslot=相対スロット番号 portno=ポート番号 vfcid=SfcVfcID vfcWWN={移行元の WWPN invalid reset}	vfcWWN の変更	なし
get AutoVnicMac	lpar=LPAR 番号	自動生成 MAC アドレスに使用する情報の取得	なし
set AutoVnicMac	lpar=LPAR 番号 vnicsysno=自動生成 MAC に使用する VNIC システム番号 seedlpar=自動生成 MAC に使用する LPAR 番号 または lpar=LPAR 番号 vnicsysno=reset	自動生成 MAC アドレスに使用する情報の変更	なし
get LPARRtcDiff	lpar=LPAR 番号	LPAR RTC 時刻とシステム時刻との差分値を取得	Date and Time
set LPARRtcDiff	lpar=LPAR 番号 RTCdif=差分時間(秒)	LPAR RTC 時刻とシステム時刻との差分値を設定	Date and Time
get vfcidChangeInhibit	lpar=LPAR 番号	VfcID 変更禁止情報取得	なし
set vfcidChangeInhibit	lpar=LPAR 番号 inhibit={yes no}	VfcID 変更禁止情報の設定	なし
opr TakeHvmDump		HVM ダンプ採取	なし
opr StartGuestDump		ゲストメモリダンプ開始	なし
opr CancelGuestDump	lpar=LPAR 番号	ゲストメモリダンプ中止	なし
get GuestDumpProgress		ゲストメモリダンプ進捗状況取得	なし
get HvmPerfMon	filename=一時ファイル名称 {noconf} {nocpu} {nonic} {hohba} {nodetail}	HVM 統計情報の取得	LPAR Usage

補足

- set LPAR 関連のインタフェースでは、上記パラメータとともに[generation=数値]を指定できます。
- フォルダやファイルのパスには、Windows がサポートする最大文字数まで指定できます。

出力形式

HvmSh コマンドが出力する実行結果メッセージと終了コードについて説明します。

標準出力に実行結果メッセージを出力します。コマンド実行中にエラーが発生した場合は、実行結果の1行目を標準エラー出力にも出力します。

終了コードは、実行結果メッセージに出力するとともに、コマンドプロンプトやバッチファイルからの実行の場合は、HvmSh コマンド実行直後に ERRORLEVEL 環境変数を参照することでも取得できます。

実行結果メッセージには、次の3種類の情報を出力します。

HvmSh[(HvmSh バージョン)]△ ¹ 結果種別△ ¹ 実行日時△ ¹ Return:△終了コード[△ ¹ Msg:メッセージ]	1 行目
[HVM コマンド△ ¹ HVM インタフェースバージョン△ ¹ HVM コマンド受付日時]	2 行目
[HVM インタフェース依存情報]	3 行目以降

補足

- △¹ は、1 つ以上の空白を示します。
- HvmSh[(HvmSh バージョン)]は、HvmSh コマンドのバージョンを示します。[(HvmSh バージョン)]の出力は、HvmSh コマンドのバージョンによって異なります。

バージョン 3.0 以前 : 出力しない
バージョン 3.1 以降 : 出力する

- [△¹Msg:メッセージ]は、エラー終了の場合に出力されます。
- HVM に要求が届かなかった場合、2 行目以降は出力しません。
- オプション入力エラーの場合には、2 行目以降に、HvmSh コマンドの簡易な使用方法を表示します。
- 結果種別は Completed または Failed または Accepted です。

Completed は正常終了を表します。

Failed はエラー終了を表します。

Accepted は、HVM が要求を受け付けたことを示し、終了コードが操作番号(*)を表します。ここで返された操作番号を用いて実行結果を別コマンドで問い合わせることができます。

(*)操作番号:HVM が、実行に時間がかかる要求を受け付けた時、実行結果確認用に割り当てる通し番号。HVM が管理する操作番号の上限値を超えた場合は1にラップアラウンドします。また、HVM のレポート時には1から再開します。このため、HVM における要求受付数等の条件により、異なる要求に対して同一操作番号が割り当てられている場合があります。その場合、古い要求の実行結果を問い合わせても、目的の操作の実行結果が返りません。

- 終了コードは、HvmSh コマンドまたは HVM インタフェースの完了コードを示します。形式は、文字 "0x" に続く16進数の値です。
- Msg では、エラーを検出した際のエラーの内容を示します。
- HVM コマンドは、HVM インタフェースに対応する HVM サイドのコマンドを示します。getResult インタフェースで確認対象の操作と対応が取れるように、HVM が実行した HVM コマンドを出力します。HVM コマンドの一覧は、"HVM コマンド情報取得" を実行することで得られます。

- 実行日時は、HvmSh コマンドが実行した日付と時刻を示します。形式は、YYYY/MM/DD△HH:MM:SS です。
- HVM インタフェースバージョンは、HVM インタフェースのパラメータ、出力形式および HVM コマンドのバージョンを示します。使用中のバージョンは、"HVM コマンド情報取得" を実行することで得られます。
- HVM コマンド実行日時は、HVM コマンドを受付けた HVM サイドの日付と時刻を示します。形式は、YYYY/MM/DD△HH:MM:SS△GMT+hh:mmです。
- HVM インタフェース依存メッセージは、HVM インタフェース毎に異なり、出力されない場合もあります。
- 出力例 (Completed)

LPAR 名称取得の出力例を示します。

```
HvmSh(Versio 3.1)△Completed.△2007/05/01 △12:12:12△Return:△0x00000000
```

```
GetLparConfig△Ver.1 △2007/05/01 △12:12:12△GMT+09:00
```

```
lparname=L5U3x86-100
```

- 出力例 (Failed)

HvmSh コマンドが HVM との通信でタイムアウトが検出された際の出力例を示します。

```
HvmSh(Versio 3.1)△Failed.△△△△2007/05/01 △12:12:12△Return:△0x02020001△Msg:Response△
Timeout.
```

- 出力例 (Accepted)

LPAR の Activate の出力例を示します。

```
HvmSh(Versio 3.1)△Accepted.△△2007/05/01 12:12:12△Return:△0x00000019
```

```
Activate△Ver.1 △2009/08/05△09:30:53△GMT+09:00
```

```
accept=25
```

終了コード

HVM インタフェースの実行結果がエラーではなく、HvmSh コマンドが実行結果を出力できる場合に正常終了とします。正常終了の場合には終了コードとして"0"を返します。その他の終了コードの意味は、値の範囲によって、次のように分類します。

0x00000000	HvmSh コマンドが正常終了
0x00000001~0x0000FFFF	操作番号
0x00010000~0x00FFFFFF	HVM インタフェースのステータスコード
0x01000000~0x0FFFFFFF	HVM インタフェースのエラーコード
0x10000000~0xFFFFFFFF	HvmSh コマンドのエラーコード

ステータスコードは、実行結果問い合わせ時の終了コードです。16 進 8 桁の下 4 桁が0のときには、操作が正常

終了していたことを示します。16 進 8 桁の下 4 桁が 1 のときには、未完了であることを示します。

表 4 ステータスコード一覧

HVM インタフェース	ステータスコード	説明
set SystemInfo 系	0x00030000	正常終了
	0x00030001	未完了
	0x00030002	エラー終了
opr Activate	0x00090000	正常終了
	0x00090001	未完了
	0x00090002	エラー終了。指定の LPAR に起動抑止が設定されている可能性があります。
	0x00090003	しばらくしてから再実行してください。
	0x00090004	メモリの割り当て容量を減らすか、現在 Activate 中の LPAR を Deactivate した後に再度 LPAR の Activate を行ってください。
	0x00090005	フラグメンテーションにより、メモリが確保できませんでした。メモリの割り当て容量を減らすか、現在 Activate 中の LPAR を Deactivate した後に再度 LPAR の Activate を行ってください。
	0x00090006	メモリサイズがゼロのため、LPAR の Activate ができません。メモリサイズを設定した後、Activate を行ってください。
opr Deactivate	0x000A0000	正常終了
	0x000A0001	未完了
	0x000A0002	エラー終了
opr SaveConfig	0x000B0000	正常終了
	0x000B0001	未完了
	0x000B0002	エラー終了
	0x000B0003	しばらくしてから再実行してください。
	0x000B0004	HVM の構成情報保存が実行できませんでした。しばらくしてから再実行してください。
opr Reactivate	0x000D0000	正常終了
	0x000D0001	未完了
	0x000D0002	エラー終了
opr TakeHvmDump	0x00190000	正常終了
	0x00190001	未完了
	0x00190004	エラー終了。しばらくしてから再実行してください。
	0x00190005	エラー終了。しばらくしてから再実行してください。
	0x00190100	エラー終了。HVM 内部エラーが発生しました。保守員に連絡してください。
	0x00190101	エラー終了。HVM 内部エラーが発生しました。保守員に連絡してください。

HVM インタフェース	ステータスコード	説明
	0x00190102	エラー終了。HVM 内部エラーが発生しました。保守員に連絡してください。
	0x00190103	エラー終了。HVM 内部エラーが発生しました。保守員に連絡してください。
	0x00190200	エラー終了。FTP サーバ接続に失敗しました。FTP サーバの IP アドレスの指定に誤りがないか確認してください。
	0x00190201	エラー終了。FTP サーバのログインに失敗しました。FTP サーバの UserID とパスワードの指定に誤りがないか確認してください。
	0x00190202	エラー終了。FTP サーバのディレクトリパスが見つかりませんでした。FTP サーバのディレクトリパスの指定に誤りがないか確認してください。
	0x00191000	エラー終了。外部 FTP サーバとの通信タイムアウトが発生しました。HVM-外部 FTP サーバ間ネットワーク構成を確認してください。問題が解決されない場合は、外部 FTP サーバの FTP ソフトウェアが正しく動作しているかを確認してください。それでも問題が解決されない場合は、保守員に連絡してください。
	0x00191nnn	エラー終了。外部 FTP サーバへの転送エラーが発生しました。nnn は FTP の reply code(注)の値です。HVM-外部 FTP サーバ間ネットワーク構成を確認してください。問題が解決されない場合は、外部 FTP サーバの FTP ソフトウェアが正しく動作しているかを確認してください。それでも問題が解決されない場合は、保守員に連絡してください。 (注) FTP の仕様(RFC 959)で定義される reply code です。

戻り値

HvmSh コマンドの戻り値は、終了コードに示す値と同じです。

利用例

HvmSh コマンドは、1 回の実行につき 1 回だけ HVM インタフェースを実行します。そのため、操作番号が返されたコマンドの実行結果を取得するためには、getResult を実行する必要があります。

HVM の構成情報を保存する HvmSh コマンドの利用例を示します。

```
D:\hvmsh>HvmSh.exe -host=192.168.0.22 opr SaveConfig
HvmSh(Version 3.1) Accepted. 2007/05/05 09:33:03 Return: 0x0000001C
SaveConfig Ver.1 2007/05/05 09:30:53 GMT+09:00
accept=25
```

```
D:\hvmsh>hvmsh.exe -host=192.168.0.22 getresult accept=25
HvmSh(Version 3.1) Completed. 2007/05/05 09:33:22 Return: 0x000B0001
GetResults Ver.1 2007/05/05 09:31:12 GMT+09:00
SaveConfig 2007/05/05 09:30:53 GMT+09:00
```

~

```
D:\hvmsh>hvmsh.exe -host=192.168.0.22 getresult accept=25
HvmSh(Version 3.1) Completed. 2007/05/05 09:33:39 Return: 0x000B0000
GetResults Ver.1 2007/05/05 09:31:28 GMT+09:00
SaveConfig 2007/05/05 09:30:53 GMT+09:00
```

この一連の操作を簡略化するバッチファイルの例を次に示します。

SaveConfig を要求し、その実行結果を得るバッチファイルの例:

```
setlocal

rem SaveConfig 実行
hvmsh -host=%1 opr SaveConfig

rem リターンコードを acceptno に退避
set /a acceptno=%ERRORLEVEL%
if /i %acceptno% geq 0x00010000 goto confirm_completed

:looptag
rem 実行結果を取得
hvmsh -host=%1 getResult accept=%acceptno%

rem ステータスコードを statuscode に退避
set /a statuscode=%ERRORLEVEL%
if /i %statuscode% geq 0x01000000 goto confirm_completed

rem ステータスコードを判定
set /a statuscode="%statuscode% & 0x0000FFFF"
if /i %statuscode% neq 1 goto confirm_completed

rem 約 5 秒待つ
ping -n 5 localhost >nul
goto looptag

:confirm_completed
endlocal
```

この内容のテキストファイルをバッチファイルとして保存(拡張子を.bat にする)します。引数にホスト IP アドレスを指定して実行すると、操作番号を取得した後、依頼したコマンドの実行が完了するまで約 5 秒間隔で HvmSh コマンドを実行します。

エラーメッセージ

コマンドが出力するメッセージに含まれるエラーの内容と終了コードを表 5 に示します。

表 5 エラーメッセージ一覧

コード	メッセージ	説明	対処方法
0x01000000	Illegal HVM interface was requested.	サポートしていない HVM インタフェースを要求されました。	HVM インタフェースの指定内容を確認してください。 HVM インタフェースが接続対象の HVM

コード	メッセージ	説明	対処方法
			でサポートされていることを確認してください。
0x01010000	The specified parameter(%s) is invalid.	指定のパラメータが不正です。	HVM インタフェースのパラメータを見直して正しくセットしてください。
0x01010001	Invalid HVM interface version.	HVM がサポートしていない HVM インタフェースを要求されました。	HVM インタフェースの指定内容を確認してください。指定した HVM インタフェースに対して操作先の HVM のバージョンが古い可能性があります。
0x01020000	Invalid Input Data.(%s)	パラメータで指定された数字が、10進数でないあるいは、桁数が不正です。	HVM インタフェースのパラメータの進数と桁数を見直して正しくセットしてください。
0x01030000	Invalid Input Data.(%s)	パラメータで指定された値が、指定可能な範囲外です。	HVM インタフェースのパラメータの指定可能範囲を確認して正しくセットしてください。
0x01040000	The combination of parameters is invalid.	パラメータで指定された値は、既存の LPAR 構成情報にはセットできません。	LPAR 構成情報と状態を確認してください。欄外の補足を参照してください。
0x01040001	A required parameter is missing.	必要なパラメータが指定されていません。	必要なパラメータをセットしてください。
0x011A0000	Illegal parameter. The specified LPAR Number is out of a range.	パラメータ不正。LPAR 番号が指定可能な範囲外です。	ゲストメモリダンプ採取対象 LPAR の LPAR 番号を確認して正しい LPAR 番号を指定してください。
0x011B0000	Illegal parameter. The specified LPAR Number is out of a range.	パラメータ不正。LPAR 番号が指定可能な範囲外です。	ゲストメモリダンプ採取を中止する LPAR の LPAR 番号を確認して正しい LPAR 番号を指定してください。
0x04000000	Target LPAR is undefined.	LPAR 操作時、操作対象 LPAR が未定義です。	LPAR を定義してから操作してください。
0x04000001	The accept number is invalid.	指定された操作番号は登録されていません。	操作先の HVM(-host=IP アドレス)が操作時と同じか確認してください。また、操作時に返された操作番号を正しく指定してください。
0x04000002	The generation number is invalid.	指定された世代番号が不一致しました。	最新の LPAR 定義を確認してください。世代番号を特定するときは、最新の世代番号をセットしてください。
0x04010000	The target LPAR is being operated.	指定された LPAR は操作中のため、新たな操作要求を受付できません。	しばらくしてから再実行してください
0x04010001	Target LPAR is active.	指定された LPAR が Activate 中なので操作ができません。	操作対象の LPAR が Deactivate された後でコマンドを実行してください。
	Active LPARs exist.	Activate 中の LPAR がある為に操作ができません。	操作対象の HVM の全 LPAR が Deactivate された後でコマンドを実行してください。
0x04010002	Target LPAR is not active.	LPAR Deactivate 操作対象の LPAR が既に Deactivate の状態です。	操作対象の HVM と LPAR を確認し、Activate 中の LPAR を対象にコマンドを実行してください。
0x04010003	The specified LPAR has already been defined.	指定された LPAR は既に定義されています。	未定義の LPAR 番号を指定して LPAR を追加してください。または、LPAR 番号を特定しないで LPAR を追加してください。
0x041B0000	A guest memory dump for the target LPAR is not in progress.	指定された LPAR はゲストメモリダンプ採取中ではありません。	ゲストメモリダンプ採取中のみ中止操作が可能です。指定された LPAR がゲストメモリダンプ採取中かどうかは、

コード	メッセージ	説明	対処方法
			get GuestDumpProgress コマンドにより確認できます。
0x08000000	HVM is not executable condition for this request.	HVM は要求された処理を実行できる状況にありません。	しばらくしてから再実行してください。また、HVM スクリーンの設定用サブスクリーンを開いていないか確認してください。
0x08000001	Save Configuration request is already accepted. Please wait.	HVM 構成情報の保存要求はすでに受けています。	HVM 構成情報の保存が開始されるまでお待ちください。
0x08010000	Count Over Shared NIC Config.	既に共有 NIC が上限値である 6 個存在している為、NIC のスケジュールモードを共有に変更できません。	共有 NIC の設定数上限は 6 個です。別の共有 NIC を占有 NIC に設定変更してからコマンドを再実行するか、あるいはシステム構成を再検討してください。
0x08020000	The name(LPAR 名) is used for other LPAR.	LPAR 名称設定時、同じ名前の LPAR が既に存在します。	設定する LPAR 名称と既に定義済みの LPAR 名称を確認してください。重複しない LPAR 名称で再度実行してください。
0x08020001	The specified value is already used for other field.	指定した値は重複しているため設定できません。	別の値を指定してください。
0x08030000	Change VNIC System No.	VNIC System No の変更(0 以外に変更)が必要です。	VNIC System No を 0 以外に変更してください。
0x08040000	VfcWWN cannot be changed. It is necessary to set vfcId unchangeable.	指定した vfcId は変更不可の設定でない為、vfcWWN を変更できません。	Vfcid を変更不可の設定に変更してから再度実行してください。
0x08040001	AutoVnicMac can not be reset because it is used already for LPAR%d.	指定した AutoVnicMac は別領域に同一 LPAR 番号が登録されているため、リセット出来ません。	AutoVnicMac の設定値を確認してください。
0x08040002	VfcWWN can not be reset because it is used already for relative slot%d port%d vfcid%d VfcWWN%x.	指定のパラメータに対応する VfcWWN はリセットできません。Relative slot%d port%d vfcid%d に、リセット VfcWWN%x が既に登録されています。	VfcWWN を再検討してください。
0x08190001	HVM dump process is busy. (Other dump was in generating process.) Please retry the command later.	他のダンプ採取中(生成処理中)のため、ダンプ採取できませんでした。	しばらくしてから再実行してください。
0x08190002	HVM dump process is busy.(Other dump was in transferring process.) Please retry the command later.	他のダンプ採取中(転送処理中)のため、ダンプ採取できませんでした。	しばらくしてから再実行してください。
0x08191001	HVM internal error occurred. Dump generation failed.(Null pointer error)	HVM 内部エラーが発生しました。ダンプ生成失敗(ヌルポインタのエラー)。	操作先の HVM の環境で重度の高い障害が発生している可能性があります。御社で適用している保守手順に従って対処してください(保守員に連絡する等)。障害解析の為に HvmSh コマンドの実行結果ログを保守員に連絡する等が必要です。
0x08191002	HVM internal error occurred. Dump generation failed.(Dump table error)	HVM 内部エラーが発生しました。ダンプ生成失敗(ダンプテーブルのエラー)。	操作先の HVM の環境で重度の高い障害が発生している可能性があります。御社で適用している保守手順に従って対処してください(保守員に連絡する等)。障害解析の為に HvmSh コマンドの実行結果ログを保守員に連絡する等が必要です。

コード	メッセージ	説明	対処方法
0x08191003	HVM internal error occurred. Dump generation failed.(Max dump size over)	HVM 内部エラーが発生しました。ダンプ生成失敗(ダンプ最大容量オーバー)。	操作先の HVM の環境で重度の高い障害が発生している可能性があります。御社で適用している保守手順に従って対処してください(保守員に連絡する等)。障害解析の為に HvmSh コマンドの実行結果ログを保守員に連絡する等が必要です。
0x081A0001	A previous guest memory dump is in progress. Please retry the command later.	既にゲストメモリダンプ採取中のため、ダンプ採取できませんでした。	以前に要求したゲストメモリダンプ採取が完了するまでお待ちください。この採取完了後、コマンドを再実行してください。
0x0C000001	Target LPAR is Failure.	操作対象 LPAR が回復不能な障害により使用不可な状態です。	操作先の HVM の環境で重度の高い障害が発生している可能性があります。御社で適用している保守手順に従って対処してください(保守員に連絡する等)。障害解析の為に HvmSh コマンドの実行結果ログを保守員に連絡する等が必要です。
0x10010000	Invalid Option.	不正なオプションが指定されています。	HvmSh コマンドのオプションが正しく設定されているか確認してください。
0x10020000	Target Host Unreachable.	対象のホストが見つかりませんでした。	指定した IP アドレスが正しいか確認してください。また、指定した対象ホスト(操作先 HVM)が正常に動作していることを確認してください。
0x10020001	Response Timeout.	対象のホストからの応答がありませんでした。	指定した対象ホスト(操作先 HVM)が正常に動作していることを確認してください。正常に動作している場合は再実行してください。
0x10030000	Unknown Data Received.	予期しないデータを受信しました。	指定した対象ホスト(操作先 HVM)が正常に動作していることを確認してください。
0x10030001	Failed to bind.	bind に失敗しました。	通信構成を確認してください。
0x10030002	Failed to activate session.	セッション確立に失敗しました。	指定した対象ホストが正常に動作していることと、セッション数を確認してください。
0x10031yzz	There is an error report from HVM regarding message transmission.	HVM とのメッセージを送受信で HVM からエラーが報告された。 yzz は HvmSh コマンドおよび HVM の内部コードを示す 16 進数の値。	指定した対象ホスト(操作先 HVM)が正常に動作していることを確認してください。
0x10190001	Illegal parameter. FTP IP Address input form is xxx.xxx.xxx.xxx (xxx : decimal number, the range : 0.0.0.0 - 255.255.255.254).	パラメータ不正。外部 FTP サーバの IP アドレスは“xxx.xxx.xxx.xxx” (xxx : 10 進数、範囲:0.0.0.0 - 255.255.255.254) の形式で入力してください。	HVM ダンプの転送・保存先である外部 FTP サーバの IP アドレスの指定内容を確認してください。
0x10190002	Illegal parameter. Input FTP User ID in less than 16 characters or equal.	パラメータ不正。外部 FTP サーバの User ID は 16 文字以内で入力してください。	HVM ダンプの転送・保存先である外部 FTP サーバの User ID の指定内容を確認してください。
0x10190003	Illegal parameter. Input FTP Password in less than 16 characters or equal.	パラメータ不正。外部 FTP サーバのパスワードは 16 文字以内で入力してください。	HVM ダンプの転送・保存先である外部 FTP サーバのパスワードの指定内容を確認してください。
0x10190004	Illegal parameter. Input FTP Directory Path in less than 49 characters or equal.	パラメータ不正。外部 FTP サーバのディレクトリパスは 49 文字以内で入力してください。	HVM ダンプの転送・保存先である外部 FTP サーバのディレクトリパスの指定内容を確認してください。

コード	メッセージ	説明	対処方法
0x101A0001	Illegal parameter. FTP IP Address input form is xxx.xxx.xxx.xxx (xxx : decimal number, the range : 0.0.0.0 - 255.255.255.254).	パラメータ不正。外部 FTP サーバの IP アドレスは“xxx.xxx.xxx.xxx” (xxx : 10 進数、範囲:0.0.0.0 - 255.255.255.254) の形式で入力してください。	ゲストメモリダンプの転送・保存先である外部 FTP サーバの IP アドレスの指定内容を確認してください。
0x101A0002	Illegal parameter. Input FTP User ID in less than 16 characters or equal.	パラメータ不正。外部 FTP サーバの User ID は 16 文字以内で入力してください。	ゲストメモリダンプの転送・保存先である外部 FTP サーバの User ID の指定内容を確認してください。
0x101A0003	Illegal parameter. Input FTP Password in less than 16 characters or equal.	パラメータ不正。外部 FTP サーバのパスワードは 16 文字以内で入力してください。	ゲストメモリダンプの転送・保存先である外部 FTP サーバのパスワードの指定内容を確認してください。
0x101A0004	Illegal parameter. Input FTP Directory Path in less than 49 characters or equal.	パラメータ不正。外部 FTP サーバのディレクトリパスは 49 文字以内で入力してください。	ゲストメモリダンプの転送・保存先である外部 FTP サーバのディレクトリパスの指定内容を確認してください。
0x101A0005	Illegal parameter. The specified LPAR Number is out of a range.	パラメータ不正。LPAR 番号が指定可能な範囲外です。	ゲストメモリダンプ採取の操作対象の HVM と LPAR を確認し LPAR 番号を正しくセットしてください。
0x101B0005	Illegal parameter. The specified LPAR Number is out of a range.	パラメータ不正。LPAR 番号が指定可能な範囲外です。	ゲストメモリダンプ中止の操作対象の HVM と LPAR を確認し LPAR 番号を正しくセットしてください。
0x101B0006	Illegal parameter. LPAR Number was not specified.	パラメータ不正。LPAR 番号が指定されていません。	LPAR 番号を指定してください。
0x101F0001	The temporary file specified in “filename=” option does not exist.	get HvmPerfMon 実行が一度目であったため、統計情報の出力ができませんでした。	get HvmPerfMon を再実行してください。
0x101F0002	The content of temporary file specified in “filename=” option is now invalid.	get HvmPerfMon の実行が前回の実行から 10 分を越えています。	get HvmPerfMon を再実行してください。
0x101F001x	Access error occurred for temporary file specified in “filename=” option.	get HvmPerfMon 実行時 “filename=” オプションで指定する一時ファイルの読み出しあるいは書き込みでエラーが発生しました。 x は HvmSh コマンドの内部コードを示す 16 進数の値。	“filename=” オプションの指定値を確認し、再実行してください。 再実行しても現象が消滅しない場合は、get HvmPerfMon の filename=オプションで指定する一時ファイルを Windows エクスプローラなどで削除し、その後で get HvmPerfMon を再実行してください。
0x101F002x	The content of temporary file specified in “filename=” option is invalid.	get HvmPerfMon 実行時、“filename=” オプションで指定する一時ファイルの内容が不正になっています。 x は HvmSh コマンドの内部コードを示す 16 進数の値。	“filename=” オプションの指定値を確認し、再実行してください。 再実行しても現象が消滅しない場合は、get HvmPerfMon の filename=オプションで指定する一時ファイルを Windows エクスプローラなどで削除し、その後で get HvmPerfMon を再実行してください。
0x11000000	Illegal HVM interface was requested.	不正な HVM インタフェースが指定されています。または HVM インタフェースの指定がありません。	指定の HVM インタフェースを確認してください。
0xFFFFFFFF	Unexpected Exception was raised.	内部エラーが発生しました。 または HVM でエラーが発生しました。	操作先の HVM の環境で重度の高い障害が発生している可能性があります。御社で適用している保守手順に従って対処をしてください(保守員に連絡する等)。障害解析の為には HvmSh コマ

コード	メッセージ	説明	対処方法
			ドの実行結果ログを保守員に連絡する等が必要です。

補足

リターンコードが0x01040000、かつメッセージがThe combination of parameters is invalid.のとき、以下の指定をしていないか確認してください。

- 占有モードLPARへのset LPARSrv
- Xeon版HVM以外へのset LPARPB
- 共有モードLPARへのset LPARProc
- 占有論理プロセッサ数より大きい物理プロセッサ番号を指定したset LPARProc
- 占有論理プロセッサ数より大きい論理プロセッサ番号を指定したset LPARProc
- LPAR内で重複する番号を指定した論理プロセッサ番号を指定したset LPARProc
- アサインしていないPCIデバイス番号にAttachまたはDetachを指定したset LPARPCI
- 排他共有モードでないPCIデバイス番号にAttachまたはDetachを指定したset LPARPCI
- Activate状態でないLPARにAttachまたはDetachを指定したset LPARPCI
- Activate状態であり、既にDetachされているLPARにDetachを指定したset LPARPCI
- Activate状態であり、既にAttachされているLPARにAttachを指定したset LPARPCI
- 存在しない共有NICのネットワークセグメントの識別子を指定したset LPARVNICID、set LPARVNICMac、set LPARVNICVlan
- 共有NICのネットワークセグメントの識別子を重複指定したset LPARVNICID、set LPARVNICMac、set LPARVNICVlan
- 2ポートの共有NICを割り当てるとき、2ポート(例:1aと1b)が割り当たるように指定していないset LPARVNICID
- 別のVnicに定義されているMacアドレスを指定したset LPARVNICMac
- vlanmode=UnTagおよびvlanid=ALLを指定したset LPARVNICVlan
- vlanmode=UnTagおよびvlanidに複数VlanIdを指定したset LPARVNICVlan
- SfcVfcIDを割り当てるPCIがない(指定スロット番号または指定ポート番号が不正です)set LPARSFC
- SfcVfcIDが既に別LPARの同スロット番号、且つ、同一ポート番号)に設定されているset LPARSFC
- VfcIdの割り当て変更が禁止されたLPARを指定してVfcId割り当て変更を要求したset LPARSFC

HVMインタフェースの個別仕様

各項目の詳細情報については、BladeSymphony BS2000 ユーザーズガイド、BladeSymphony BS320 ユーザーズガイド、または BladeSymphony BS1000 ユーザーズガイドの HVM スクリーンの説明を参照してください。

個別仕様の中で **LPAR 番号**と記述しているものは、10 進数で、1 から最大 LPAR 番号により、対象 LPAR の LPAR 番号を示します。

個別仕様の中で **世代番号**と記述しているものは、10 進数で、1 から最大世代番号 (65535 まで指定できます) により、対象 LPAR の世代番号を意味します。世代番号は、LPAR 定義が変更されたかどうかを示す値です。HVM スクリーン、JP1/SC/BSM、あるいは他の管理サーバの HvmSh コマンドによって LPAR 定義が変更されると、HVM は世代番号を更新します。HvmSh コマンドで LPAR 定義を変更するときに generation パラメータを指定すると、同時に指定した LPAR の世代番号が異なる世代番号を持っている場合には、HVM は LPAR 定義を変更しません。

設定値を取得する HVM インタフェースにおいて、取得した値が未設定、あるいは値が取得できなかった場合には、“-”を出力します。

占有モード LPAR のサービス率の例:lparsrv=-

LPAR の存在しない pcino=10 の PCI デバイスの種類の例:pcitype=-

個別仕様の目次

□	LPAR定義追加.....	24
□	LPAR定義削除.....	24
□	LPARをActivate.....	25
□	LPARをDeactivate.....	26
□	LPARをReactivate.....	26
□	構成情報保存.....	26
□	LPAR名取得.....	26
□	LPAR名設定.....	27
□	LPARのステータスの取得.....	27
□	共有モードの論理プロセッサ数取得.....	27
□	共有モードの論理プロセッサ数設定.....	27
□	占有モードの論理プロセッサ数取得.....	28
□	占有モードの論理プロセッサ数設定.....	28
□	LPARのサービス時間の配分情報取得.....	28
□	LPARのサービス時間の配分情報設定.....	28
□	LPARに割り当てるメモリ容量の取得.....	29
□	LPAR に割り当てるメモリ容量の設定.....	29
□	LPARに割り当てられた仮想NIC数の取得.....	29
□	論理プロセッサアイドル検出機能の有効/無効取得.....	29

□	論理プロセッサアイドル検出機能の有効/無効設定	30
□	自動Activate情報取得	30
□	自動Activate設定	30
□	論理SELの自動クリア機能の有効/無効取得	30
□	論理SELの自動クリア機能の有効/無効設定	31
□	プロセッサキャッピング機能の有効/無効取得	31
□	プロセッサキャッピング機能の有効/無効設定	31
□	Pre-bootファームウェア選択情報取得	31
□	Pre-bootファームウェア選択	32
□	LPAR に割り当て可能なメモリの総量取得	32
□	メモリ割り当て情報取得	32
□	論理プロセッサ割り当て情報取得	33
□	論理プロセッサの割り当て	33
□	物理プロセッサ情報取得	33
□	PCIデバイスの割り当て情報取得	34
□	PCIデバイスの割り当て	34
□	PCIデバイス情報取得	35
□	システム構成情報取得	35
□	VNICネットワークセグメント情報取得	36
□	VNICネットワークセグメント割り当て	36
□	VNICのMacアドレス情報取得	37
□	VNICのMacアドレスの設定	37
□	VNICのVLAN ID情報取得	37
□	VNICのVLAN ID設定	38
□	共有FCの割り当て情報取得	38
□	共有FCの割り当て情報設定	39
□	SEL(System Event Log)時刻の取得	39
□	SEL(System Event Log)時刻の設定	39
□	HVMシステム時刻の取得	40
□	Pre-State Auto Activationオプション取得	40
□	Pre-State Auto Activationオプション設定	40
□	HVM Auto Shutdownオプション取得	40
□	HVM Auto Shutdownオプション設定	40
□	共有NIC状態情報取得	41
□	仮想LAN セグメントの状態情報取得	41

□ LPARに割り当てられた占有FC情報の取得	41
□ FC割り当て情報取得	42
□ 仮想NICのネットワークセグメント単位のDMAエンジン利用可否取得	42
□ HVMインタフェースの実行結果取得	42
□ LPAR世代番号取得	43
□ HVMコマンド情報取得	43
□ LPAR起動抑止情報取得	44
□ LPAR起動抑止情報の設定	44
□ 相対スロット番号取得	44
□ vfcWWN取得	44
□ vfcWWNの変更	45
□ 自動生成MACアドレスに使用する情報の取得	46
□ 自動生成MACアドレスに使用する情報の変更	46
□ LPAR時刻差分情報取得	47
□ LPAR時刻差分情報の設定	47
□ VfcID変更禁止情報取得	47
□ VfcID変更禁止情報の設定	48
□ HVMダンプ採取	49
□ ゲストメモリダンプ開始	50
□ ゲストメモリダンプ中止	51
□ ゲストメモリダンプ進捗状況取得	51
□ HVM統計情報の表示	54

□ LPAR定義追加

指定の LPAR 番号の LPAR 定義を追加します。

形式

```
opr LPARAdd lpar=LPAR 番号
```

依存メッセージ

なし

□ LPAR定義削除

指定の LPAR 番号で定義された LPAR 定義を削除します。

形式

```
opr LPARRemove lpar=LPAR 番号 [generation=世代番号]
```

依存メッセージ

なし

□ LPARをActivate

指定の LPAR 番号で定義された LPAR を Activate 状態にします。

形式

```
opr Activate lpar=LPAR 番号
```

依存メッセージ

```
accept=操作番号
```

HVM が受付時に割り当てた操作番号を 10 進で出力します。正常終了時の終了コードは 16 進の操作番号です。

出力例

```
HvmSh Accepted.          2007/05/01 12:12:12 Return: 0x00000064
Activate Ver.1 2007/05/01 12:12:12 GMT+09:00
accept=100
```

□ LPARをDeactivate

指定の LPAR 番号で指定した LPAR を Deactivate 状態にします。

形式

```
opr Deactivate lpar=LPAR 番号
```

依存メッセージ

```
accept=操作番号
```

HVM が受付時に割り当てた操作番号を 10 進で出力します。正常終了時の終了コードは 16 進の操作番号です。

□ LPARをReactivate

指定の LPAR 番号で指定した LPAR を再起動します。

形式

```
opr Reactivate lpar=LPAR 番号
```

依存メッセージ

```
accept=操作番号
```

HVM が受付時に割り当てた操作番号を 10 進で出力します。正常終了時の終了コードは 16 進の操作番号です。

□ 構成情報保存

構成情報を保存します。

形式

```
opr SaveConfig
```

依存メッセージ

```
accept=操作番号
```

HVM が受付時に割り当てた操作番号を 10 進で出力します。正常終了時の終了コードは 16 進の操作番号です。

□ LPAR名取得

指定の LPAR 番号の LPAR 名を取得します。

形式

```
get LPARName lpar=LPAR 番号
```

依存メッセージ

```
lparname=LPAR 名
```

□ LPAR名設定

指定の LPAR 番号の LPAR 名を設定します。

形式

```
set LPARName lpar=LPAR 番号 lparname=LPAR 名 [generation=世代番号]
```

LPAR 名は 1～31 文字以内の LPAR 名を指定します。

依存メッセージ

なし

□ LPARのステータスの取得

指定の LPAR 番号の LPAR のステータスを取得します。

形式

```
get LPARStatus lpar=LPAR 番号
```

依存メッセージ

```
status={Activated | Deactivated | Failure}
```

□ 共有モードの論理プロセッサ数取得

指定の LPAR 番号の LPAR に割り当てる共有モードの論理プロセッサ数を取得します。

形式

```
get LPARShrProc lpar=LPAR 番号
```

依存メッセージ

```
shrproc=共有モードの論理プロセッサ数
```

プロセッサ数を 10 進数で表示します。

□ 共有モードの論理プロセッサ数設定

指定の LPAR 番号の LPAR に割り当てる共有モードの論理プロセッサ数を設定します。

形式

```
set LPARShrProc lpar=LPAR 番号 shrproc=共有モードの論理プロセッサ数 [generation=世代番号]
```

共有モードの論理プロセッサ数は 10 進数で 0 から最大論理プロセッサ数まで指定できます。

依存メッセージ

なし

□ 占有モードの論理プロセッサ数取得

指定の LPAR 番号の LPAR に割り当てる占有モードの論理プロセッサ数を取得します。

形式

```
get LPARDedProc lpar=LPAR 番号
```

依存メッセージ

```
dedproc=占有モードの論理プロセッサ数
```

□ 占有モードの論理プロセッサ数設定

指定の LPAR 番号の LPAR に割り当てる占有モードの論理プロセッサ数を設定します。

形式

```
set LPARDedProc lpar=LPAR 番号 dedproc=占有モードの論理プロセッサ数 [generation=世代番号]
```

占有モードの論理プロセッサ数は 10 進数で 0 から最大論理プロセッサ数まで指定できます。

依存メッセージ

なし

□ LPARのサービス時間の配分情報取得

指定の LPAR 番号の LPAR のサービス時間の配分を取得します。

形式

```
get LPARSrv lpar=LPAR 番号
```

依存メッセージ

```
lparsrv= LPAR のサービス時間の配分
```

注意事項

LPAR が占有モードの場合、サービス時間の配分の値は“-“になります。LPAR を共有モードに設定変更すると、占有モードにする前に設定されていたサービス時間の配分、あるいはデフォルト値 100 が設定されます。共有モードに設定変更したときには、サービス時間の配分値を確認してください。

□ LPARのサービス時間の配分情報設定

指定の LPAR 番号の LPAR のサービス時間の配分を設定します。

形式

```
set LPARSrv lpar=LPAR 番号 lparsrv= LPAR のサービス時間の配分 [generation=世代番号]
```

LPAR のサービス時間の配分は 10 進数で 1 から最大値まで指定できます。

依存メッセージ

なし

□ LPARに割り当てるメモリ容量の取得

指定の LPAR 番号の LPAR に割り当てるメモリ容量を取得します。

形式

```
get LPARMem lpar=LPAR 番号
```

依存メッセージ

```
lparmem=LPAR に割り当てるメモリ容量(MB)
```

□ LPAR に割り当てるメモリ容量の設定

指定の LPAR 番号の LPAR に割り当てるメモリ容量を設定します。

形式

```
set LPARMem lpar=LPAR 番号 lparmem= LPAR に割り当てるメモリ容量(MB) [generation=世代番号]
```

LPAR に割り当てるメモリ容量(MB)は 10 進数で未使用メモリサイズまで 256 の倍数を指定できます。

依存メッセージ

なし

□ LPARに割り当てられた仮想NIC数の取得

指定の LPAR 番号の LPAR に割り当てられた仮想 NIC 数を取得します。

形式

```
get LPARVNICCount lpar=LPAR 番号
```

依存メッセージ

```
vniccount=仮想 NIC 数
```

□ 論理プロセッサアイドル検出機能の有効/ 無効取得

指定の LPAR 番号の LPAR の論理プロセッサアイドル検出機能の有効/無効を取得します。

形式

```
get LPARID lpar=LPAR 番号
```

依存メッセージ

```
lparid={Yes | No}
```

□ 論理プロセッサアイドル検出機能の有効/ 無効設定

指定の LPAR 番号の LPAR の論理プロセッサアイドル検出機能の有効/無効を設定します。

形式

```
set LPARID lpar=LPAR 番号 lparid={Yes | No} [generation=世代番号]
```

依存メッセージ

なし

□ 自動Activate情報取得

指定の LPAR 番号の LPAR を HVM 起動時に自動 Activate するかどうかの情報を取得します。

形式

```
get LPARAA lpar=LPAR 番号
```

依存メッセージ

```
lparaa=自動 Activate 情報
```

自動 Activate 情報は次の値になります。

*: 自動 Activate をしません。

1 以上の 10 進数字: 自動 Activate をします。数字は Activate する順番を示します。(数値の小さい方が優先されます。)

□ 自動Activate設定

指定の LPAR 番号の LPAR を HVM 起動時に自動 Activate するかどうかを設定します。

形式

```
set LPARAA lpar=LPAR 番号 lparaa=自動 Activate 情報 [generation=世代番号]
```

自動 Activate 情報は*または 1 以上の 10 進数を指定できます。

依存メッセージ

なし

□ 論理SELの自動クリア機能の有効/ 無効取得

指定の LPAR 番号の LPAR の論理 SEL の自動クリア機能の有効/ 無効情報を取得します。

形式

```
get LPARAC lpar=LPAR 番号
```

依存メッセージ

```
lparac={Yes | No}
```


□ 論理SELの自動クリア機能の有効/無効設定

指定の LPAR 番号の LPAR の論理 SEL の自動クリア機能の有効/無効を設定します。

形式

```
set LPARAC lpar=LPAR 番号 lparac={Yes | No} [generation=世代番号]
```

依存メッセージ

なし

□ プロセッサキャッピング機能の有効/無効取得

指定の LPAR 番号の LPAR のプロセッサキャッピング機能の有効/無効情報を取得します。

形式

```
get LPARPC lpar=LPAR 番号
```

依存メッセージ

```
lparpc={Yes | No | *}
```

Yes: 共有モードの論理プロセッサ時、プロセッサキャッピング機能有効

No: 共有モードの論理プロセッサ時、プロセッサキャッピング機能無効

*: 占有モードの論理プロセッサ時(プロセッサキャッピング機能無効)

□ プロセッサキャッピング機能の有効/無効設定

指定の LPAR 番号の LPAR のプロセッサキャッピング機能の有効/無効を設定します。

形式

```
set LPARPC lpar=LPAR 番号 lparpc={Yes | No} [generation=世代番号]
```

依存メッセージ

なし

注意事項

占有モードの LPAR でもプロセッサキャッピング機能の設定が可能です。ただし、取得情報は*(プロセッサキャッピング機能無効)になります。設定した値は、共有モードに切替えたときに有効になります。

□ Pre-bootファームウェア選択情報取得

指定の LPAR 番号の LPAR の LPAR Activate で起動する Pre-boot ファームウェア情報を取得します。

形式

```
get LPARPB lpar=LPAR 番号
```

依存メッセージ

```
lparpb={BIOS | 64UEFI}
```

□ Pre-bootファームウェア選択

指定の LPAR 番号の LPAR の LPAR Activate で起動する Pre-boot ファームウェアを選択します。

形式

```
set LPARPB lpar=LPAR 番号 lparpb={ BIOS | 64UEFI } [generation=世代番号]
```

依存メッセージ

なし

注意事項

64UEFI が未サポートの HVM の場合、64UEFI を指定すると HVM エラーになります。

□ LPAR に割り当て可能なメモリの総量取得

LPAR に割り当て可能なメモリの総量を MB 単位で表示します。

形式

```
get SystemMemSize
```

依存メッセージ

```
usermem=ユーザメモリ総量(MB)
```

□ メモリ割り当て情報取得

メモリの割り当て状況をアドレスの昇順に表示します。

形式

```
get SystemMemAlloc
```

依存メッセージ

```
memaddr=開始アドレス memsize=メモリサイズ name=使用名称
```

メモリ領域数分繰り返し。

開始アドレス: 割り当てられたメモリの開始アドレスを 16 進数で表示します。

メモリサイズ: 10 進数で、MB 単位のメモリサイズを表示します。

使用名称: memaddr で示されるアドレスから、memsize で示されるメモリ領域を使用している名称です。名称の意味は以下のとおりです:

SYS1: HVM のカーネル部が使用しています。

SYS2: HVM のネットワーク通信部およびサービス制御部が使用しています。

LPARx: LPAR 番号。Activate 状態の LPAR のみ表示します。

*****: 未割り当て領域です。

出力例

```
memaddr=0000000000000000 memsize=768 name=SYS2
memaddr=0000000030000000 memsize=1024 name=LPAR1
memaddr=0000000070000000 memsize=256 name=SYS1
memaddr=0000000100000000 memsize=512 name=LPAR1
memaddr=0000000120000000 memsize=2048 name=*****
memaddr=00000001a0000000 memsize=1536 name=LPAR3
memaddr=0000000200000000 memsize=1792 name=*****
memaddr=0000000270000000 memsize=256 name=SYS1
```

□ 論理プロセッサ割り当て情報取得

指定の LPAR 番号の LPAR の論理プロセッサに割り当てる物理プロセッサ番号情報を取得します。

形式

```
get LPARLProc lpar=LPAR 番号 lprocno=論理プロセッサ番号
```

依存メッセージ

```
lproctype={* | S | D | 物理プロセッサ番号}
```

*: 未割り当て(Offline) 状態です。

S: 共有モードで割り当てられています。

D: 占有モードで割り当てられています。(ただし、LPAR が Deactivate 状態のときのみ)

物理プロセッサ番号: 10進数で示される物理プロセッサ番号が割り当てられています。(ただし、占有モード LPAR が Activate 状態または、Deactivate 状態で物理プロセッサ番号を設定しているとき)

□ 論理プロセッサの割り当て

指定の LPAR 番号の LPAR の論理プロセッサに物理プロセッサ番号を割り当てます。

形式

```
set LPARLProc lpar=LPAR 番号 lprocno=論理プロセッサ番号 lproctype={D | 物理プロセッサ番号}  
[generation=世代番号]
```

依存メッセージ

なし

□ 物理プロセッサ情報取得

物理プロセッサ状態と物理プロセッサ構成を表示します。

形式

```
get SystemPProc pprocno=物理プロセッサ番号
```

物理プロセッサ番号は 0 から最大物理プロセッサ番号まで指定できます。

依存メッセージ

```
pprocblade=サーバモジュール番号  
pprocdie=ダイ番号  
pproccore=コア番号  
pprocthread=スレッド番号  
pprocstatus={RUN | FAI | ERR}  
pprocschd={D | S}
```

□ PCIデバイスの割り当て情報取得

指定の LPAR 番号の LPAR に割り当てる PCI デバイス情報を取得します。

形式

```
get LPARPCI lpar=LPAR 番号 pcino=PCI デバイス番号
```

PCI デバイス番号は HVM が識別するために各 PCI デバイスに付加した番号を 10 進数で指定します。

依存メッセージ

```
pcitype={S | N | F | U | -}  
pcischd={S | D | E | -}  
pciassign={* | A | R | -}
```

pcino に対応する設定情報を取得できなかったとき“-“を出力します。

□ PCIデバイスの割り当て

指定の LPAR 番号の LPAR に PCI デバイスを割り当てます。

形式

```
set LPARPCI lpar=LPAR 番号 pcino=PCI デバイス番号 pciassign={Assign | Attach | Detach | *} [generation=世代番号]
```

PCI デバイス番号は HVM が識別するために各 PCI デバイスに付加した番号を 10 進数で指定します。

Assign: Deactivate 状態の LPAR に USB デバイスを割り当てます。

Attach: Activate 状態の LPAR に USB デバイスを接続します。

Detach: Activate 状態の LPAR から USB デバイスを切り離します。

*: Deactivate 状態の LPAR の USB デバイスの割り当てを解除します。

依存メッセージ

なし

□ PCIデバイス情報取得

PCI デバイスのスケジューリング設定情報を取得します。

形式

```
get SystemPCI pcino=PCI デバイス番号
```

PCI デバイス番号は HVM が識別するために各 PCI デバイスに付加した番号を 10 進数で指定します。

依存メッセージ

```
pcitype=PCI デバイスの種類
pcisched=PCI デバイスのスケジューリングモード
vendor=ベンダ名称
devname=デバイス名称
slotno=SlotNo
bus=当該 FC が実装されている PCI の Bus#
dev=当該 FC が実装されている PCI の Dev#
func=0
lpar={LPAR 番号 | S | M}
snic={共有 NIC 番号 | -}
```

取得値を以下に説明します。

PCI デバイスの種類: S: SCSI controller, N: Network interface Card (NIC)、F: Fiber Channel, U: USB controller

PCI デバイスのスケジューリングモード: D: 占有モード、E: 排他共有モード、S: 共有モード

SlotNo: G0 ~ G97、G00 ~ G90、G01 ~ G91、U0 ~ U97 および UK0~UK97 を表示した場合、G=Gigabit Ether、U=USB、UK=リモート KVM ボード、数字=ブレード番号を意味します。また、E00~E90 および E01~E91 の場合は、E=拡張 IO カード、数字=ブレード番号+搭載位置を意味します

□ システム構成情報取得

System Configuration スクリーンで表示している項目の設定情報を取得します。

形式

```
get SystemConfig
```

依存メッセージ

```
hvmid=HVM 識別子
hvmip=HVMIP アドレス
subnetmask=サブネットマスク
defaultgateway=デフォルトゲートウェイ
svpip=SVP IP アドレス
bsm1ip=BSM1 IP アドレス
bsm1alert=BSM1 アラートポート
bsm2ip=BSM2 IP アドレス
bsm2alert=BSM2 アラートポート
bsm3ip=BSM3 IP アドレス
bsm3alert=BSM3 アラートポート
bsm4ip=BSM4 IP アドレス
bsm4alert=BSM4 アラートポート
managepath=管理パス
vnicsysno=VNIC システム番号
language=アラート言語モード
connect={Unknown | Success | Fail} 内部パスの接続状態
link={Unknown | Yes | No}
port={0 | 1}
```

項目	BS1000	BS2000
svpip	SVP IP を示します。	固定値 0.0.0.0 を示します。
connect	管理バスの接続状態を示します。	内部バスの接続状態を示します。
link	管理バスのリンク状態を示します。	内部バスのリンク状態を示します。
port	管理バスのポート番号を示します。	固定値 0 を示します。

□ VNICネットワークセグメント情報取得

指定の LPAR 番号の LPAR に割り当てる VNIC ネットワークセグメント情報を取得します。

形式

```
get LPARVNICID lpar=LPAR 番号 vnicno=VNIC 番号
```

VNIC 番号は 10 進数で 0 から 7 まで指定できます。

依存メッセージ

```
vnicno=VNIC 番号、仮想 NIC または共有 NIC のネットワークセグメントの識別子
```

未割り当ては '*' を表示します。

□ VNICネットワークセグメント割り当て

指定の LPAR 番号の LPAR に VNIC ネットワークセグメントを割り当てます。

形式

```
set LPARVNICID lpar=LPAR 番号 vnicno=VNIC 番号、{仮想 NIC または共有 NIC のネットワークセグメントの識別子 | *} [ ... vnicno=VNIC 番号、{仮想 NIC または共有 NIC のネットワークセグメントの識別子 | *} ] [generation=世代番号]
```

vnicno パラメータは複数指定できます。

VNIC 番号は 10 進数で 0 から 7 まで指定できます。

依存メッセージ

なし

使用例

```
set LPARVNICID lpar=1 vnicno=0、Va→VNIC 番号0に Va を割り当てます。
```

```
set LPARVNICID lpar=1 vnicno=1、1a vnicno=2、1b→VNIC 番号 1 に 1a を、VNIC 番号 2 に 1b を割り当てます。
```

注意事項

物理ポート数によってVNIC割り当て数が異なります。

共有NICが2ポートのときは、VNICが2つ(例:1aと1b)割り当てられるように指定してください。

□ VNICのMacアドレス情報取得

指定の LPAR 番号の LPAR に割り当てる VNIC の Mac アドレス情報を取得します。

形式

```
get LPARVNICMac lpar=LPAR 番号 vnicno=VNIC 番号
```

VNIC 番号は 10 進数で 0 から 7 まで指定できます。

依存メッセージ

```
mac=MAC アドレス
```

制限事項

VNIC 番号に VNIC が割り当てられていないとき、Mac アドレスを取得できません。

□ VNICのMacアドレスの設定

指定の LPAR 番号の LPAR に VNIC の Mac アドレスを設定します。

形式

```
set LPARVNICMac lpar=LPAR 番号 vnicno=VNIC 番号、仮想 NIC または共有 NIC のネットワークセグメントの識別子 mac=MAC アドレス [generation=世代番号]
```

MAC アドレスの形式 XX:XX:XX:YY:YY:ZZ (デリミタは取得に合わせてコロン。)

XX:XX:XX は 00:00:00 ~ FF:FF:FF の範囲。

YY:YY は 00:00 ~ FF:FF の範囲。ただし HVM の生成範囲を除きます。

ZZ は 00 ~ FF の範囲。

依存メッセージ

なし

注意事項

vnicno パラメータで指定するネットワーク識別子情報も HVM に反映されるため、指定誤りのないよう注意してください。

□ VNICのVLAN ID情報取得

指定の LPAR 番号の LPAR に割り当てる VNIC の VLAN ID 情報を取得します。

形式

```
get LPARVNICVlan lpar=LPAR 番号 vnicno=VNIC 番号
```

VNIC 番号は 10 進数で 0 から 7 まで指定できます。

依存メッセージ

```
vlanmode={Tag | UnTag | Undef}  
vlanid=VlanId[、・・・、VlanId]
```

VlanId: 定義されている VLAN ID (10 進数)。VLAN ID が 'ALL' で定義されている場合、'ALL' のみを表示します。

□ VNICのVLAN ID設定

指定の LPAR 番号の LPAR に VNIC の VLAN ID を設定します。

形式

```
set LPARVNICVlan lpar=LPAR 番号 vnicno=VNIC 番号、仮想 NIC または共有 NIC のネットワークセグメントの識別子 vlanmode={Tag | UnTag | Undef} [vlanid=VlanId[, ..., VlanId]] [generation=世代番号]
```

VlanId は定義する VLAN ID。10 進数 (HvmSh コマンドとしては、1~4094 を指定できます。) または 'All'。'All' を指定すると、全 VLAN ID を受け取ることができます。vlanmode=UnTag のときは 'All' を指定できません。vlanmode=Undef のときは vlanid パラメータを指定できません。

依存メッセージ

なし

注意事項

vnicno パラメータで指定するネットワーク識別子情報も HVM に反映されるため、指定誤りのないよう注意してください。

制限事項

LPAR が ^g Activate 中に VLAN ID を割り当てることはできません。

□ 共有FCの割り当て情報取得

指定の LPAR 番号の LPAR に割り当てる共有 FC の設定情報を取得します。

形式

```
get LPARSFC lpar=LPAR 番号 sfcno=共有 FC 番号
```

共有 FC 番号 は 10 進数で 0 から最大 FC 番号まで指定できます。

依存メッセージ

```
slotno=SlotNo  
portno=PortNo  
vfcid=VfcID  
wwpn= FC の WWPN  
wwnn= FC の WWN  
bus= FC が実装されている PCI の Bus#  
dev= FC が実装されている PCI の Dev#  
func= FC が実装されている PCI の Func#
```

slotno が E00~E90 および E01~E91 の場合、E=拡張 IO カード、数字=ブレード番号+搭載位置を意味します。

□ 共有FCの割り当て情報設定

指定の LPAR 番号の LPAR に割り当てる共有 FC の vfcid 情報を設定します。

形式

```
set LPARSFC lpar=LPAR 番号 slotno=スロット番号 portno=ポート番号 vfcid=SfcVfcID [generation=世代番号]
```

スロット番号: sfcno で指定した共有 FC を割り当てているスロット番号を 10 進数で指定します。なお、拡張 IO カードの場合のスロット番号は E00～E90、または E01～E91 を指定します。sfcno で指定した共有 FC を割り当てているスロット番号を 10 進数で指定します。

ポート番号: sfcno で指定した共有 FC を割り当てているポート番号を 10 進数で指定します。

SfcVfcID: 定義する vfcID (1～8 または*)を指定します。*は割り当て解除の指定です。

依存メッセージ

なし

□ SEL(System Event Log)時刻の取得

指定の LPAR 番号の LPAR に割り当てる SEL 時刻を取得します。

形式

```
get LPARSelTime lpar=LPAR 番号
```

依存メッセージ

```
seltime= SEL 時刻  
mode={GMT | Local-Time}  
zone=タイムゾーン 表示例: zone=+10
```

□ SEL(System Event Log)時刻の設定

指定の LPAR 番号の LPAR に割り当てる SEL 時刻を設定します。

形式

```
set LPARSelTime lpar=LPAR 番号 [seltime=SEL 時刻] [mode={GMT | Local Time}] [zone=タイムゾーン]  
[generation=世代番号]
```

SEL 時刻は YYYY/MM/DD-hh:mm:ss の形式。hhは 24 時間表記です。

タイムゾーンは-12 から+12 まで 1 時間単位に指定できます。

依存メッセージ

なし

注意事項

SEL 時刻と mode を同時に設定する場合、先に SEL 時刻が設定され、その後 mode と zone により SEL 時刻が書き換えられます。

□ HVMシステム時刻の取得

HVM システム時刻を取得します。

形式

```
get SystemTime
```

依存メッセージ

```
time= HVM システム時刻  
zone=タイムゾーン
```

□ Pre-State Auto Activationオプション取得

Pre-State Auto Activation オプションを取得します。

形式

```
get OptPreState
```

依存メッセージ

```
prestate={Yes | No}
```

□ Pre-State Auto Activationオプション設定

Pre-State Auto Activation オプションを設定します。

形式

```
set OptPreState prestate={Yes | No}
```

依存メッセージ

なし

□ HVM Auto Shutdownオプション取得

HVM Auto Shutdown オプションを取得します。

形式

```
get OptAutoSd
```

依存メッセージ

```
autosd={Yes | No}
```

□ HVM Auto Shutdownオプション設定

HVM Auto Shutdown オプションを設定します。

形式

```
set OptAutoSd autosd={Yes | No}
```

依存メッセージ

なし

□ 共有NIC状態情報取得

共有 NIC 状態を表示します。

形式

```
get SystemSNIC segment=共有 NIC 番号 portid={a | b}
```

共有 NIC 番号には 1 から 6 まで指定できます。

依存メッセージ

```
snicstate={U | D | * | -}
```

U: Link Up 状態

D: Link Down 状態

*: 状態が不明(HVM スクリーンは“-“になっています。)

-: 定義されていない(HVM スクリーンは空白表示になっています。)

□ 仮想LAN セグメントの状態情報取得

仮想 LAN セグメントの状態を表示します。

形式

```
get SystemLANSeg segment={V | 共有 NIC 番号} portid={a | b | c | d}
```

共有 NIC 番号には 1 から 6 まで指定できます。

依存メッセージ

```
lansegstate={A | S | D | -}
```

A: Active 状態

S: Standby 状態

D: Down 状態

F: Fault 状態

-: 共有 NIC でない(HVM スクリーンは空白表示になっています。)

□ LPARに割り当てられた占有FC情報の取得

指定の LPAR 番号の LPAR に割り当てられた占有 FC 情報を取得します。

形式

```
get LPARDedFC lpar=LPAR 番号
```

依存メッセージ

```
slotno=SlotNo portno=PortNo wwpn=WWPN wwnn=WWNN
```

割り当てられた占有 FC 数分繰り返します。

占有 FC が1つも割り当てられていないときには、依存メッセージが出力されません。

slotno が E00～E90 および E01～E91 の場合、E=拡張 IO カード、数字=ブレード番号+搭載位置を意味します。

□ FC割り当て情報取得

FC 割り当て情報を表示します。

形式

```
get SystemFC
```

依存メッセージ

```
lpar=LPAR 番号 slotno=SlotNo portno=PortNo shcmd={D | S} vfcid=VfcID wwpn= FC の WWPN wwnn= FC の WWN portstatus={A | D | C | E}
```

FC 数分繰り返し表示します。

LPAR に未割り当ての FC は lpar に '-' を表示します。

VfcID は、共有 FC 以外の場合は '-' を表示します。

slotno が E00～E90 および E01～E91 の場合、E=拡張 IO カード、数字=ブレード番号+搭載位置を意味します。

出力例:

```
lpar=1 slotno=4 portno=0 shcmd=S vfcid=1 wwpn=2301000087020000 wwnn=2301000087020001 portstatus=A  
lpar=- slotno=4 portno=0 shcmd=S vfcid=2 wwpn=2302000087020000 wwnn=2302000087020001 portstatus=D  
lpar=2 slotno=13 portno=0 shcmd=D vfcid=- wwpn=2302000087020000 wwnn=2302000087020001 portstatus=C  
lpar=2 slotno=13 portno=1 shcmd=D vfcid=- wwpn=2302000087020000 wwnn=2302000087020001 portstatus=E
```

□ 仮想NICのネットワークセグメント単位の DMAエンジン利用可否取得

仮想 NIC のネットワークセグメント単位の DMA エンジン利用可否を取得します。

形式

```
get SystemVNICA segment={V | 共有 NIC 番号} portid={a | b | c | d}
```

共有 NIC 番号には 1 から 6 まで指定できます。

依存メッセージ

```
vnica={-}
```

-: DMA エンジン利用可否を取得できない

注意事項

HVM が未サポートのため、常に '-' を表示します。

□ HVMインタフェースの実行結果取得

指定の操作番号で受け付けた HVM インタフェースの実行結果(ステータスコード)を、終了コードに返します。

形式

```
getResult accept=操作番号
```

操作番号は 10 進数で 1 から HVM が管理する最大操作番号まで指定できます。

依存メッセージ

操作番号に対応する HVM コマンドと HVM の受付日時です。

返答例:

```
Activate 2007/05/01 12:10:12 GMT+09:00
```

□ LPAR世代番号取得

指定の LPAR 番号の LPAR の世代番号を取得します。

形式

```
get LPARGeneration lpar=LPAR 番号
```

依存メッセージ

```
generation=世代番号
```

□ HVMコマンド情報取得

HvmSh コマンドと HVM との間で使用される HVM コマンドとそのバージョン一覧を返します。

形式

```
get Versions
```

依存メッセージ

返答例:

```
GetSystemInfo Ver.1  
SetSystemInfo Ver.1  
GetLPARConfig Ver.1  
SetLPARConfig Ver.1  
GetPerf Ver.1  
GetOption Ver.1  
SetOption Ver.1  
Activate Ver.1  
Deactivate Ver.1  
SaveConfig Ver.1  
GetResults Ver.1  
Reactivate Ver.1  
GetPerformance Ver.1
```

□ LPAR起動抑止情報取得

LPAR 起動抑止情報を取得します。

形式

```
get ActInhibit lpar=LPAR 番号
```

依存メッセージ

```
inhibit={yes | no}
```

yes: 指定した LPAR は起動が抑止されています。指定した LPAR は Activate することができません。

no: 指定した LPAR は起動抑止が無効です。

□ LPAR起動抑止情報の設定

LPAR 起動抑止情報を設定します。

形式

```
set ActInhibit lpar=LPAR 番号 inhibit={yes | no}
```

yes: 指定した LPAR の起動を抑止します。yes を設定した LPAR は Activate することができません。

no: 指定した LPAR の起動抑止を無効にします。

依存メッセージ

なし

□ 相対スロット番号取得

PCI スロットのスロット番号とそれに対応する相対スロット番号を取得します。

形式

```
get RelativeSlot
```

依存メッセージ

```
slotno=PCI デバイスが搭載されているスロット番号 relslot=slotno に対応する相対スロット番号
```

PCI スロット数分繰り返し表示します。

slotno が E00～E90 および E01～E91 の場合、E=拡張 IO カード、数字=ブレード番号 + 搭載位置を意味します。

□ vfcWWN取得

相対スロット番号とポート番号と VfcID で特定される共有 FC の vfcWWN(WWPN)を取得します。

形式

```
get vfcWWN relslot=相対スロット番号 portno=ポート番号 vfcid=SfcVfcID
```

相対スロット番号は 10 進数で 0 から FC の最大相対スロット番号を指定できます。

PCI スロットのスロット番号に対応する相対スロット番号は、get RelativeSlot インタフェースにより取得できます。

ポート番号: 共有 FC を割り当てているポート番号を 10 進数で指定します。

SfcVfcID: VfcID(1～8)を指定します。

依存メッセージ

```
vfcWWN=設定されている WWN
```

□ vfcWWNの変更

相対スロット番号とポート番号と VfcID で特定される共有 FC の vfcWWN(WWPN)を変更します。

形式

```
set vfcWWN relslot=相対スロット番号 portno=ポート番号 vfcid=SfcVfcID  
vfcWWN=交換設定する WWPN[invalid|reset]
```

相対スロット番号は 10 進数で 0 から FC の最大相対スロット番号を指定できます。

PCI スロットのスロット番号に対応する相対スロット番号は、get RelativeSlot インタフェースにより取得できます。

ポート番号: 共有 FC を割り当てているポート番号を 10 進数で指定します。

SfcVfcID: VfcID(1~8)を指定します。

交換設定する WWPN は 16 進 8 桁を指定します。本機能は Five 限定であるため、0x2、0x5 で始まる WWPN を指定できます。WWNN は WWPN+1 を使用します。

invalid: 無効な vfcWWN(x'200...')を設定します。無効な vfcWWN が割り当てられた LPAR を Activate することはできません。

reset: vfcWWN を、VfcID の値などを利用して HVM が自動生成する値にリセットします。

依存メッセージ

```
vfcWWN=設定した WWN from 設定変更前の WWN
```

制限事項

vfcWWN の設定では、設定を交換する相手 LPAR(異なる HVM の LPAR)を決定後、相手 LPAR の共有 FC の vfcWWN と交換で設定してください。

vfcWWN 交換設定中の不用意な LPAR 起動を避けるため、vfcWWN を交換設定するための共有 FC を割り当てた LPAR に起動抑止の設定をしてから交換設定してください。

vfcWWN=reset を実行するときは、交換設定した2つの LPAR の共用 FC の vfcWWN を両方リセットしてください。

交換設定した vfcWWN は Save Configuration 操作をしないと保存されません。交換設定する2つの LPAR で Save Configuration が成功したことを確認するまで LPAR の起動抑止を解除しないでください。

vfcWWN を HVM が自動生成する値以外に変更した共有 FC を LPAR から割り当て解除しないでください。

vfcWWN を HVM が自動生成する値以外に変更した共有 FC を割り当てている LPAR 定義を削除(remove)しないでください。

実行結果の出力メッセージを保存してください。

N+M コールドスタンバイ機能と併用しないでください。

不用意に vfcWWN を変更すると重大なシステム障害が発生する恐れがあります。上記制限に従って使用してください。不用意に使用した場合、HVM の動作保障ができません。

注意事項

無効な vfcWWN(x'200...')を除き、既に HVM に設定済みの vfcWWN を設定することはできません。

set vfcidChangeIhhibit インタフェースにより VfcID 割り当て変更を禁止設定された LPAR に割り当て中の共有 FC のみ vfcWWN の交換設定が許可されます。ただし、その LPAR が Activate 中のときは設定することはできません。

vfcWWN=reset では、パラメータで特定される共有 FC が VfcID 割り当て変更を禁止設定された LPAR に割り当てられていなくても、HVM が自動生成する値にリセットできます。

□ 自動生成MACアドレスに使用する情報の取得

仮想 NIC 用 MAC アドレスを HVM が自動生成するときに使用する情報を取得します。

形式

```
get autoVnicMac lpar=LPAR 番号
```

依存メッセージ

```
vnicsysno=自動生成 MAC アドレスに使用する VNIC システム番号  
seedlpar=自動生成 MAC アドレスに使用する LPAR 番号
```

□ 自動生成MACアドレスに使用する情報の変更

仮想 NIC 用 MAC アドレスを HVM が自動生成するときに使用する情報を変更します。

形式

```
set autoVnicMac lpar=LPAR 番号 vnicsysno=自動生成 MAC に使用する VNIC システム番号  
seedlpar=自動生成 MAC に使用する LPAR 番号
```

自動生成 MAC に使用する VNIC システム番号は設定を交換する相手 LPAR の VNIC システム番号を指定します。

自動生成 MAC に使用する LPAR 番号には設定を交換する相手 LPAR の LPAR 番号を指定します。

自動生成 MAC アドレスに使用する情報をリセットするときの形式

```
set autoVnicMac lpar=LPAR 番号 vnicsysno=reset
```

reset : 自 VNIC システム番号と自 LPAR 番号を自動生成 MAC アドレスに使用します。

制限事項

本情報の変更は、設定を交換する相手 LPAR (異なる HVM 上の LPAR) と交換で設定してください。

本情報を設定中の不用意な LPAR 起動を避けるため、指定する LPAR に起動抑止の設定をしてから交換設定してください。

vnicsysno=reset を実行するときは、交換設定した2つの LPAR を両方リセットしてください。

変更した情報は Save Configuration 操作をしないと保存されません。交換設定する2つの LPAR で Save Configuration が成功したことを確認するまで LPAR の起動抑止を解除しないでください。

交換する相手 LPAR の仮想 NIC 用 MAC アドレスを引き継ぐには、上記情報を交換設定するとともに、仮想 NIC の割り当ても引き継いでください。相手 LPAR が自動生成ではない MAC アドレスを設定していたとき、その MAC アドレスを引き継ぐには、本情報を交換設定後にその MAC アドレスを設定し直してください。

仮想 NIC 用 MAC アドレスを HVM が自動生成するときに使用する情報を変更した LPAR 定義を削除(remove)しないでください。LPAR 定義を削除する前に、vnicsysno=reset で交換設定した2つの LPAR を両方リセットしてください。

実行した HvmSh コマンドとその実行結果を保存してください。

N+M コールドスタンバイ機能と併用しないでください。

不用意に vfcWWN を変更すると重大なシステム障害が発生する恐れがあります。上記制限に従って使用してください。不用意に使用した場合、HVM の動作保障ができません。

注意事項

指定の LPAR が Activate 中のときは変更できません。
既に HVM の他の LPAR に設定されている情報を設定することはできません。
本情報が交換設定されている LPAR がある HVM では、VNIC システム番号を変更できません。

□ LPAR時刻差分情報取得

システム時刻と LPAR RTC 時刻の差分時間(秒)を取得します。

形式

```
get LPARRTCdiff lpar=LPAR 番号
```

依存メッセージ

```
RTCdiff=差分時間(秒)
```

差分時間(秒)は 0 以上なら符号無し、負の場合なら-(マイナス)符号が付きます。

注意事項

LPAR が Activate 中のときは、コマンド処理時点での RTCdiff 値を取得します。

□ LPAR時刻差分情報の設定

システム時刻と LPAR RTC 時刻の差分時間(秒)を設定します。

形式

```
set LPARRTCdiff lpar=LPAR 番号 RTCdiff=差分時間(秒)
```

差分時間(秒)は 10 進数を符号付き 64 ビット型の値の範囲を指定できます。0 以上なら符号無し、負の場合なら-(マイナス)符号を付けてください。

依存メッセージ

なし

制限事項

設定した情報は Save Configuration 操作をしないと保存されません。

注意事項

LPAR が Activate 中のときは設定できません。

本設定は、Date and Time スクリーンの LPAR RTC 表示の RTC 時刻に反映されます。

generation=数値パラメータの指定はできません。

□ VfcID変更禁止情報取得

VfcID 変更禁止情報を取得します。

形式

```
get vfcidChangeInhibit lpar=LPAR 番号
```

依存メッセージ

```
inhibit={yes | no}
```

yes: 指定の LPAR の VfcID 割り当て変更が禁止されています。

no: 指定の LPAR の VfcID 割り当て変更禁止は無効になっています。

□ VfcID変更禁止情報の設定

VfcID 変更禁止情報を設定します。

形式

```
set vfcidChangeInhibit lpar=LPAR 番号 inhibit={yes | no}
```

yes: 指定の LPAR の VfcID 割り当て変更を禁止します。

no: 指定の LPAR の VfcID 割り当て変更禁止を無効にします。

依存メッセージ

なし

制限事項

設定した情報は Save Configuration 操作をしないと保存されません。

注意事項

LPAR が `Activate` 中のときは設定できません。

共有 FC の vfcWWN を変更するためには、共有 FC が割り当てられている LPAR に VfcID 割り当て変更禁止 (inhibit=yes) を設定してください。

LPAR 定義を削除後に LPAR を再定義すると、VfcID 変更禁止情報は inhibit=no になります。

VfcID 変更禁止情報に inhibit=yes が設定されている LPAR がある HVM では、PCI デバイスのスケジューリングモードを変更できません。

□ HVMダンプ採取

HVM ダンプを採取し、外部 FTP サーバに転送・保存します。

形式

```
opr TakeHvmDump
```

パラメータ

パラメータの入力は、対話形式で行います。入力するパラメータを以下に示します。

- ・HVM ダンプの転送・保存先である外部 FTP サーバの IP アドレス
- ・HVM ダンプの転送・保存先である外部 FTP サーバの User ID
- ・HVM ダンプの転送・保存先である外部 FTP サーバのパスワード
- ・HVM ダンプの転送・保存先である外部 FTP サーバのディレクトリパス(指定した FTP 配下のディレクトリパス)

上記 User ID、パスワードは 16 文字まで入力可能です。上記ディレクトリパスは 49 文字まで入力可能です。

依存メッセージ

```
accept=操作番号
```

HVM が受付時に割り当てた操作番号を 10 進で出力します。正常終了時の終了コードは 16 進の操作番号です。

使用例

本コマンドの使用例を以下に示します。

```
> HvmSh -host=xxx.xxx.xxx.xxx opr TakeHvmDump (enter) ①

FTP IP Address : xxx.xxx.xxx.xxx (enter) ②
FTP User ID : xxxxxxxx (enter) ③
FTP Password : ***** (enter) ④
FTP Directory Path : xxx/xxx/ (enter) ⑤

FTP IP Address : xxx.xxx.xxx.xxx
FTP User ID : xxxxxxxx
FTP Password : (非表示)
FTP Directory Path : xxx/xxx/ } ⑥

Confirm? (Y/[N]) : Y (enter) ⑦
```

- ①: 本コマンド「TakeHvmDump」の入力例です。-host には HVM ダンプ採取対象の HVM の IP アドレスを指定してください。例) -host=192.168.0.22
- ②: 外部 FTP サーバの IP アドレスを入力してください。例) 10.206.12.164
- ③: 外部 FTP サーバの User ID を入力してください。
- ④: 外部 FTP サーバのパスワードを入力してください。入力文字は「*」に置き換えられて表示されます。
- ⑤: 外部 FTP サーバのディレクトリパス(指定した FTP 配下のディレクトリパス)を入力してください。
- ⑥: ②～⑤で入力した内容が表示されます。但し、④のパスワードは表示されません。
- ⑦: 入力内容を確認の上、HVM ダンプ採取を実行して良い場合、「Y」を入力してください。HVM ダンプ採取を実行したくない場合、N を入力してください。

補足事項

本 HvmSh コマンド「HVM ダンプ採取」を実行後、当該ダンプ採取の実行結果を確認するため、HvmSh コマンド

「HVM インタフェースの実行結果取得」を実行してください。

□ ゲストメモリダンプ開始

指定 LPAR 番号に対するゲストメモリダンプ採取を開始します。採取されたダンプ情報は外部 FTP サーバに転送・保存されます。

形式

```
opr StartGuestDump
```

パラメータ

パラメータの入力は、対話形式で行います。入力するパラメータを以下に示します。

- ・ゲストメモリダンプ採取対象 LPAR 番号
- ・外部 FTP サーバの IP アドレス
- ・外部 FTP サーバの User ID
- ・外部 FTP サーバのパスワード
- ・外部 FTP サーバのディレクトリパス (指定した FTP 配下のディレクトリパス)

上記 User ID、パスワードは 16 文字まで入力可能です。上記ディレクトリパスは 49 文字まで入力可能です。

依存メッセージ

```
accept=操作番号
```

HVM が受付時に割り当てた操作番号を 10 進で出力します。正常終了時の終了コードは 16 進の操作番号です。

使用例

本コマンドの使用例を以下に示します。

```
> HvmSh -host=xxx.xxx.xxx.xxx opr StartGuestDump (enter) ①

LPAR Number: xx (enter) ②
FTP IP Address : xxx.xxx.xxx.xxx (enter) ③
FTP User ID : xxxxxxxx (enter) ④
FTP Password : *****(enter) ⑤
FTP Directory Path : xxx/xxx/ (enter) ⑥

LPAR Number: xx
FTP IP Address : xxx.xxx.xxx.xxx
FTP User ID : xxxxxxxx
FTP Password : (非表示)
FTP Directory Path : xxx/xxx/
} ⑦

Confirm? (Y/[N]) : Y (enter) ⑧
```

- ①: 本コマンド「StartGuestDump」の入力例です。-host にはゲストメモリダンプ採取対象 LPAR が含まれる HVM の IP アドレスを指定してください。例) -host=192.168.0.22
- ②: ゲストメモリダンプ採取対象 LPAR の LPAR 番号を入力してください。
- ③: 外部 FTP サーバの IP アドレスを入力してください。例) 10.206.12.164
- ④: 外部 FTP サーバの User ID を入力してください。
- ⑤: 外部 FTP サーバのパスワードを入力してください。入力文字は「*」に置き替えられて表示されます。

- ⑥: 外部 FTP サーバのディレクトリパス(指定した FTP 配下のディレクトリパス)を入力してください。
- ⑦: ②～⑥で入力した内容が表示されます。但し、⑤のパスワードは表示されません。
- ⑧: 入力内容を確認の上、ゲストメモリダンプ採取を開始して良い場合、「Y」を入力してください。ゲストメモリダンプ採取を開始したくない場合、Nを入力してください。

補足事項

本 HvmSh コマンド「ゲストメモリダンプ開始」を実行後、当該ダンプ採取の進捗状況を確認するため、HvmSh コマンド「ゲストメモリダンプ進捗状況取得」を定期的に行ってください。

□ ゲストメモリダンプ中止

指定 LPAR 番号に対するゲストメモリダンプ採取を中止します。

形式

```
opr CancelGuestDump lpar=LPAR 番号
```

依存メッセージ

```
accept=操作番号
```

HVM が受付時に割り当てた操作番号を 10 進で出力します。正常終了時の終了コードは 16 進の操作番号です。

補足事項

本 HvmSh コマンド「ゲストメモリダンプ中止」を実行後、当該ダンプ採取の中止が成功することを確認するため、HvmSh コマンド「ゲストメモリダンプ進捗状況取得」を実行してください。

□ ゲストメモリダンプ進捗状況取得

ゲストメモリダンプ採取の進捗状況を取得する。

形式

```
get GuestDumpProgress
```

依存メッセージ

```
condition=状態メッセージ(LPAR 番号)
status=ステータス(メッセージ)
total size=全体容量
finished size=転送済み容量(転送済み%)
```

取得値を以下に説明します。

状態メッセージ(LPAR 番号):

ゲストメモリダンプの実行状態メッセージと対象 LPAR 番号を表示します。

状態メッセージ(LPAR 番号)	説明
No executing	どの LPAR に対してもゲストメモリダンプは実行されていません。
Executing (LparNN)	ゲストメモリダンプは実行中です。対象 LPAR 番号は()内に表示されます。
Completed (LparNN)	ゲストメモリダンプの実行が完了しました。対象 LPAR 番号は()内に表示されます。
Cancelled (LparNN)	ゲストメモリダンプの実行を中止しました。対象 LPAR 番号は()内に表示されます。
Failed (LparNN)	ゲストメモリダンプの実行が失敗しました。対象 LPAR 番号は()内に表示されます。

ステータス(メッセージ):

ゲストメモリダンプの実行結果ステータスのコードとメッセージを表示します。詳細を下表に示します。

全体容量:

ゲストメモリダンプの全体容量(MB)を表示します。

転送済み容量(転送済み%):

ゲストメモリダンプの転送済み容量(MB)を表示します。()内は、転送済み% (「転送済み容量/全体容量」の%)を表示します。

表 6 実行結果ステータスのコードとメッセージ一覧

コード	メッセージ	説明	対処方法
0x00000000	Normal Completed. Guest dump transferred successfully.	ゲストメモリダンプの実行が完了し、正常終了しました。	異常ではないため、対処は特に必要ありません。
0x00000001	Not Completed.	ゲストメモリダンプの実行が完了していません。	ゲストメモリダンプの実行が完了するまで、しばらくお待ちください。
0x00000002	Guest dump was cancelled.	中止操作により、ゲストメモリダンプの実行が中止されました。	異常ではないため、対処は特に必要ありません。
0x00000004	Inhibit Guest dump request. (HVM Assist not ready)	ゲストメモリダンプ要求が拒否されました。	しばらくしてから再実行してください
0x00000005	Inhibit Guest dump request. (Inhibit ICV request)	ゲストメモリダンプ要求が拒否されました。	しばらくしてから再実行してください。
0x00000100	Guest dump failed. HVM internal timeout occurred. (ICV completion timeout)	エラー終了。HVM 内部エラーが発生しました。	保守員に連絡してください。
0x00000102	Guest dump failed. HVM internal error occurred. (HVM Assist panic occurred.)	エラー終了。HVM 内部エラーが発生しました。	保守員に連絡してください。
0x00000103	Guest dump failed. HVM internal error occurred. (HVM Assist hang occurred.)	エラー終了。HVM 内部エラーが発生しました。	保守員に連絡してください。
0x00000110	Guest dump failed. HVM internal error occurred. (Guest dump initiation failed.)	エラー終了。HVM の内部エラーが発生しました。	保守員に連絡してください。
0x00000111	Guest dump failed. HVM internal error occurred. (Guest dump hang occurred.)	エラー終了。HVM 内部エラーが発生しました。	保守員に連絡してください。
0x00000120	Guest dump failed. HVM Assist changed to 'not ready' status.	エラー終了。HVM Assist が not ready 状態に変わりました。	しばらくしてから再実行してください。
0x00000121	Guest dump failed. Target LPAR was deactivated.	エラー終了。対象 LPAR が Deactivate されました。そのため、ゲストメモリ上のデータが消失してしまいました。	ゲストメモリダンプ実行中は対象 LPAR を Deactivate しないでください。
0x00000122	Guest dump failed. The stop of all logical CPU of the target LPAR failed.	エラー終了。HVM 内部エラーが発生しました。	保守員に連絡してください。
0x00000123	Guest dump failed. Guest register dump generation failed.	エラー終了。HVM 内部エラーが発生しました。	保守員に連絡してください。

コード	メッセージ	説明	対処方法
0x00000200	FTP connection failed. Confirm specified FTP IP Address.	エラー終了。外部 FTP サーバ接続に失敗しました。	FTP サーバの IP アドレスの指定に誤りがないか確認してください。
0x00000201	FTP Login failed. Confirm specified FTP UserID and Password.	エラー終了。外部 FTP サーバのログインに失敗しました。	FTP サーバの UserID とパスワードの指定に誤りがないか確認してください。
0x00000202	FTP Directory Path is not found. Confirm specified FTP Directory Path.	エラー終了。外部 FTP サーバのディレクトリパスが見つかりませんでした。	FTP サーバのディレクトリパスの指定に誤りがないか確認してください。
0x00000300	Guest dump failed. HVM internal error occurred. (Guest dump internal error)	エラー終了。HVM の内部エラーが発生しました。	保守員に連絡してください。
0x00001000	Guest dump failed. FTP network timeout occurred.	エラー終了。外部 FTP サーバとの通信タイムアウトが発生しました。	HVM-外部 FTP サーバ間ネットワーク構成を確認してください。問題が解決されない場合は、外部 FTP サーバの FTP ソフトウェアが正しく動作しているかを確認してください。それでも問題が解決されない場合は、保守員に連絡してください。
0x00001nnn	Guest dump failed. FTP error occurred. (nnn : FTP reply code)	エラー終了。外部 FTP サーバへの転送エラーが発生しました。nnn は FTP の reply code(注)の値です。 (注) FTP の仕様(RFC 959)で定義される reply code です。	HVM-外部 FTP サーバ間ネットワーク構成を確認してください。問題が解決されない場合は、外部 FTP サーバの FTP ソフトウェアが正しく動作しているかを確認してください。それでも問題が解決されない場合は、保守員に連絡してください。
0x0000FFFF	No executing condition of any Guest dump.	どの LPAR に対してもゲストメモリダンプは実行されていません。	異常ではないため、対処は特に必要ありません。
上記以外	This status is unknown.	未定義のステータスです。	保守員に連絡してください。

□ HVM統計情報の表示

HVM の統計情報を表示します。

形式

```
get△1HvmPerfMon△1filename=一時ファイル名称 [△1noconf][△1nocpu][△1nomem][△1nonic][△1nohba]
[△1nodetail]
```

一時ファイル名称：ルートから始まるパスを指定する。ファイルサイズは、最大約 250KB になります。

表 7 HvmPerfMon コマンドの出力抑止オプション

統計情報	出力抑止オプション					
	noconf	nocpu	nomem	nonic	nohba	nodetail
MONITORING_INFORMATION						
SYSTEM_CONFIGURATION	×					
LPAR_CONFIGURATION	×					
SYSTEM_USAGE_SUMMARY						
SYSTEM_CPU_USAGE		×				
SYSTEM_MEM_USAGE			×			
LPAR_CPU_USAGE		×				
PHYSICAL_CPU_USAGE		×				
PHYSICAL_NIC_USAGE				×		
PHYSICAL_HBA_USAGE					×	
LOGICAL_CPU_USAGE		×				
LOGICAL_NIC_USAGE				×		
LOGICAL_HBA_USAGE					×	
PHYSICAL_CPU_DETAIL		×				×
LOGICAL_CPU_DETAIL		×				×

×：表示しないことを示す

依存メッセージ

出力例

```
Begin<tab>1.0<CRLF>
[MONITORING_INFORMATION]<CRLF>
<tab>HVM_ID<tab>CURR_DATE_TIME<tab>PREV_DATE_TIME <tab>INTERVAL_TIME<CRLF>
<tab>HVM1921681<tab>2009/07/23 18:07:38 GMT+00:00<tab>2009/07/23 18:07:48 GMT+00:00<tab>10<CRLF>
[SYSTEM_CONFIGURATION]<CRLF>
<tab>CPUs<tab>COREs<tab>NICs<tab>HBAs<tab>MEM<tab>DEF_LPARs<tab>ACT_LPARs<tab>ACT_LPARs <CRLF>
<tab>8<tab>4<tab>6<tab>4<tab>16000<tab>3<tab>2<CRLF>
[LPAR_CONFIGURATION]<CRLF>
<tab>#<tab>NAME<tab>STATE<tab>CPUs<tab>NICs<tab>HBAs<tab>MEM<tab>CPU_MAX<tab>CPU_SRV<tab>CP<CRLF>
<tab>1<tab>LPAR1<tab>ACT<tab>4<tab>4<tab>2<tab>2000<tab>12640<tab>9480<tab>Y<CRLF>
<tab>2<tab>LPAR2<tab>ACT<tab>4<tab>4<tab>2<tab>2000<tab>12640<tab>9480<tab>N<CRLF>
<tab>3<tab>LPAR3<tab>ACT<tab>2<tab>6<tab>4<tab>10000<tab>6320<tab>*<tab>*<CRLF>
[PHYCICAL_USAGE_SUMMARY]<CRLF>
~
~
[LOGICAL_CPU_DETAIL]<CRLF>
~
```


End<CRLF>

タブを区切り文字として出力されたメッセージを表形式(Windows Excel など)で表示した場合の表示例を示す。

```
[MONITORING_INFORMATION]
HVM_ID PRODUCT CURR_DATE TIME PREV_DATE TIME INTERVAL TIME
HVM_172161724  Virtage HVM 57-30(00-00) 2009/11/17 01:08:40 2009/11/17 01:08:31 9
[SYSTEM_CONFIGURATION]
COREs  CPUs  NICs  HBAs  MEM  DEF_LPARs  ACT_LPARs  CPU_CAP  NIC_CAP  HBA_CAP  CORE_CAP  SYS_M  M  LPAR_MEM
8  16  15  2  12288  15  5  38400  14100  8000  4800  1280  11008
[LPAR_CONFIGURATION]
L#  NAME  STATE  MODE  COREs  CPUs  NICs  HBAs  MEM  CPU_CAP  CPU_MAX  CPU_WIGHT  CPU_SRV  CPU_SRV%  CPU_MAX%  CPU_SRVs  CC  ID
NIC_CAP  HBA_CAP  AFFINITY  INFORMATION
1  W2K3x64  ACT  S  2  4  2  1  1024  9600  9600  100  7680  20.00  100.00  480.00  N  Y  2000  4000  0.1  2.3  *
2  W2K8x86  ACT  S  2  4  2  1  1024  9600  9600  100  7680  20.00  100.00  480.00  N  Y  2000  4000  0.1  2.3  Windows(x86)
3  RH52x86  ACT  S  2  4  2  1  1024  9600  9600  100  7680  20.00  100.00  480.00  N  Y  2000  4000  0.1  2.3  Linux(x86)
4  RH52x64  ACT  S  2  4  2  1  1024  9600  9600  100  7680  20.00  100.00  480.00  N  Y  2000  4000  0.1  2.3  Linux(x64)
5  NO_NAME  DEACT  D  1  1  0  0  1024  2400  2400  *  *  *  100.00  *  *  Y  0  0  *  *  *
6  NO_NAME  DEACT  D  1  1  0  0  1024  2400  2400  *  *  *  100.00  *  *  Y  0  0  *  *  *
7  NO_NAME  DEACT  D  1  1  0  0  1024  2400  2400  *  *  *  100.00  *  *  Y  0  0  *  *  *
8  NO_NAME  DEACT  D  1  1  0  0  1024  2400  2400  *  *  *  100.00  *  *  Y  0  0  *  *  *
9  NO_NAME  DEACT  D  1  1  0  0  1024  2400  2400  *  *  *  100.00  *  *  Y  0  0  *  *  *
10 NO_NAME  DEACT  D  1  1  0  0  1024  2400  2400  *  *  *  100.00  *  *  Y  0  0  *  *  *
11 NO_NAME  DEACT  D  1  1  0  0  1024  2400  2400  *  *  *  100.00  *  *  Y  0  0  *  *  *
12 NO_NAME  DEACT  D  1  1  0  0  1024  2400  2400  *  *  *  100.00  *  *  Y  0  0  *  *  *
13 NO_NAME  DEACT  D  1  1  0  0  1024  2400  2400  *  *  *  100.00  *  *  Y  0  0  *  *  *
14 NO_NAME  DEACT  D  1  1  0  0  1024  2400  2400  *  *  *  100.00  *  *  Y  0  0  *  *  *
15 NO_NAME  ACT  S  2  4  2  0  1024  9600  9600  100  7680  20.00  100.00  480.00  N  Y  2000  0  0.1  2.3  *
[SYSTEM_USAGE_SUMMARY]
NAME  CAPACITY  USED  UNUSED  INSUFF  USED%  UNUSED%  INSUFF%
CPU  38400  6148  32252  94  16.01  83.99  0.24
MEM  12288  6400  5888  *  52.08  47.92  *
NIC  14100  0  14100  *  0.00  100.00  *
HBA  8000  *  *  *  *  *  *
[SYSTEM_CPU_USAGE]
NAME  COREs  CPUs  CAPACITY  USED  USED%  USED_COREs  MODE_USED%
SYS1  8  16  *  100  0.26  0.02  *
SYS2  8  16  *  79  0.21  0.02  *
SHR_LPAR  8  16  38400  5969  15.54  1.24  15.54
DED_LPAR  0  0  0  0.00  0.00  0.00
[SYSTEM_MEM_USAGE]
NAME  USED  USED%  LPAR_USED%
SYS  1280  10.42  *
LPAR  5120  41.67  46.51
[LPAR_CPU_USAGE]
L#  NAME  USED  ROB  DELAY  COREs  HST_USED%  SHR_USED%  SRV_USED%  USED%  ROB%  DELAY%  IDLE%  IOW%  N1OW%  G_RUN%  G_IDLE%  OVER%
1  W2K3x64  2396  0  4  0.50  6.24  6.24  31.20  24.96  0.00  0.04  0.00  0.00  75.00  24.96  75.04  0.00
2  W2K8x86  893  0  15  0.19  2.33  2.33  11.63  9.30  0.00  0.16  5.58  11.14  73.82  9.30  90.70  1.82
3  RH52x86  734  0  47  0.15  1.91  1.91  9.56  7.65  0.00  0.49  86.51  1.05  4.30  7.65  92.35  6.52
4  RH52x64  1940  0  24  0.40  5.05  5.05  25.26  20.21  0.00  0.25  73.53  1.28  4.73  20.21  79.79  1.34
15 NO_NAME  6  0  0  0.00  0.02  0.02  0.08  0.06  0.00  0.00  0.00  0.00  99.94  0.06  99.94  0.00
[PHYSICAL_CPU_USAGE]
CORE#  CAPACITY  MODE  USED  UNUSED  USED%  UNUSED%  NAME
0  4800  S  870  3930  18.12  81.88  Intel(R) Xeon(R) CPU E5530 @ 2.40GHz
1  4800  S  1456  3344  30.33  69.67  Intel(R) Xeon(R) CPU E5530 @ 2.40GHz
2  4800  S  747  4053  15.56  84.44  Intel(R) Xeon(R) CPU E5530 @ 2.40GHz
3  4800  S  618  4182  12.88  87.12  Intel(R) Xeon(R) CPU E5530 @ 2.40GHz
4  4800  S  343  4457  7.15  92.85  Intel(R) Xeon(R) CPU E5530 @ 2.40GHz
5  4800  S  887  3913  18.48  81.52  Intel(R) Xeon(R) CPU E5530 @ 2.40GHz
6  4800  S  582  4218  12.13  87.87  Intel(R) Xeon(R) CPU E5530 @ 2.40GHz
7  4800  S  645  4155  13.44  86.56  Intel(R) Xeon(R) CPU E5530 @ 2.40GHz
[PHYSICAL_NIC_USAGE]
SID P#  CAPACITY  MODE  USED  UNUSED  USED%  UNUSED%  REQ INT  R_BYTE  S_BYTE  T_BYTE  R_PACKET  S_PACKET  T_PACKET  NAME
X40 0 100  D  *  *  *  *  *  *  16  *  *  *  *  *  *  *  ICH10 NIC
G40 0 1000  S  0  1000  0.00  100.00  *  16  2  0  2  14  0  14  GbE Controller
G40 1 1000  S  0  1000  0.00  100.00  *  16  2  0  2  16  0  16  GbE Controller
8 2 1000  D  *  *  *  *  *  *  0  *  *  *  *  *  *  *  GbE Controller
8 3 1000  D  *  *  *  *  *  *  0  *  *  *  *  *  *  *  GbE Controller
8 0 1000  D  *  *  *  *  *  *  0  *  *  *  *  *  *  *  GbE Controller
8 1 1000  D  *  *  *  *  *  *  0  *  *  *  *  *  *  *  GbE Controller
E40 2 1000  S  0  1000  0.00  100.00  *  16  2  0  2  17  0  17  GbE Controller
E40 3 1000  S  0  1000  0.00  100.00  *  16  2  0  2  17  0  17  GbE Controller
E40 0 1000  S  0  1000  0.00  100.00  *  16  1  0  1  14  0  14  GbE Controller
E40 1 1000  S  0  1000  0.00  100.00  *  16  2  0  2  14  0  14  GbE Controller
E41 2 1000  S  0  1000  0.00  100.00  *  16  2  0  2  17  0  17  GbE Controller
E41 3 1000  S  0  1000  0.00  100.00  *  0  0  0  0  0  0  0  GbE Controller
E41 0 1000  S  0  1000  0.00  100.00  *  16  2  0  2  17  0  17  GbE Controller
E41 1 1000  S  0  1000  0.00  100.00  *  0  0  0  0  0  0  0  GbE Controller
[PHYSICAL_HBA_USAGE]
SID P#  CAPACITY  MODE  USED  UNUSED  USED%  UNUSED%  REQ INT  R_BYTE  W_BYTE  T_BYTE  R_FRAME  W_FRAME  T_FRAME  NAME
9 0 4000  S  *  *  *  *  *  *  1598  *  *  *  *  *  *  *  Fibre Channel 4Gbps 2Port(S)
9 1 4000  S  *  *  *  *  *  *  0  *  *  *  *  *  *  *  Fibre Channel 4Gbps 2Port(S)
[LOGICAL_CPU_USAGE]
L#  NAME  CPU#  USED  ROB  DELAY  IDLE  IOW  N1OW  G_RUN  USED%  ROB%  DELAY%  IDLE%  IOW%  N1OW%  G_RUN%  G_IDLE%  OVER%
1  W2K3x64  0  2396  0  4  0  0  0  2396  99.83  0.00  0.17  0.00  0.00  0.00  99.83  0.17  0.00
1  W2K3x64  1  0  0  0  119  0  2281  0  0.00  0.00  0.00  4.96  0.00  95.04  0.00  100.00  0.00
1  W2K3x64  2  0  0  0  119  0  2281  0  0.00  0.00  0.00  4.96  0.00  95.04  0.00  100.00  0.00
1  W2K3x64  3  0  0  0  119  0  2281  0  0.00  0.00  0.00  4.96  0.00  95.04  0.00  100.00  0.00
2  W2K8x86  0  174  0  2  592  148  1484  174  7.25  0.00  0.08  24.67  6.17  61.83  7.25  92.75  1.10
2  W2K8x86  1  298  0  3  3  295  1801  298  12.42  0.00  0.12  0.12  12.29  75.05  12.42  87.58  0.97
2  W2K8x86  2  147  0  5  9  48  2191  147  6.13  0.00  0.21  0.37  2.00  91.29  6.13  93.87  3.43
2  W2K8x86  3  274  0  5  10  556  1555  274  11.42  0.00  0.21  0.42  23.17  64.78  11.42  88.58  1.84
3  RH52x86  0  180  0  18  2116  34  52  180  7.50  0.00  0.75  88.16  1.42  2.17  7.50  92.50  10.00
3  RH52x86  1  254  0  10  1992  16  128  254  10.58  0.00  0.42  83.00  0.67  5.33  10.58  89.42  3.97
3  RH52x86  2  127  0  14  2107  14  138  127  5.29  0.00  0.58  87.80  0.58  5.75  5.29  94.71  10.96
```

3	RH52x86	3	173	0	5	2049	28	145	173	7.21	0.00	0.21	85.37	1.17	6.04	7.21	92.79	2.91
4	RH52x64	0	480	0	10	1799	77	34	480	20.00	0.00	0.42	74.95	3.21	1.42	20.00	80.00	2.10
4	RH52x64	1	153	0	5	2107	0	135	153	6.38	0.00	0.21	87.78	0.00	5.63	6.38	93.62	3.29
4	RH52x64	2	229	0	6	1974	0	191	229	9.54	0.00	0.25	82.25	0.00	7.96	9.54	90.46	2.62
4	RH52x64	3	1078	0	3	1152	0	167	1078	44.92	0.00	0.12	48.00	0.00	6.96	44.92	55.08	0.27
15	NO_NAME	0	6	0	0	0	0	2394	6	0.25	0.00	0.00	0.00	0.00	99.75	0.25	99.75	0.00
15	NO_NAME	1	0	0	0	119	0	2281	0	0.00	0.00	0.00	4.96	0.00	95.04	0.00	100.00	0.00
15	NO_NAME	2	0	0	0	119	0	2281	0	0.00	0.00	0.00	4.96	0.00	95.04	0.00	100.00	0.00
15	NO_NAME	3	0	0	0	119	0	2281	0	0.00	0.00	0.00	4.96	0.00	95.04	0.00	100.00	0.00

[LOGICAL_NIC_USAGE]

L#	NAME	SID	P#	USED	USED%	REQ	INT	R_BYTE	S_BYTE	T_BYTE	R_PACKET	S_PACKET	T_PACKET	TIME1	TIME2
1	W2K3x64G40	0	0	0.00	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.00
1	W2K3x64G40	1	0	0.00	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.00
2	W2K8x86G40	0	0	0.00	0	9	1	0	1	9	0	9	9	5436.29	3.13
2	W2K8x86G40	1	0	0.00	0	9	1	0	1	9	0	9	9	2.30	2.17
3	RH52x86G40	0	0	0.00	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.00
3	RH52x86G40	1	0	0.00	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.00
4	RH52x64G40	0	0	0.00	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.00
4	RH52x64G40	1	0	0.00	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.00
15	NO_NAMEG40	0	0	0.00	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.00
15	NO_NAMEG40	1	0	0.00	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.00

[LOGICAL_HBA_USAGE]

L#	NAME	SID	P#	USED	USED%	REQ	INT	R_BYTE	W_BYTE	T_BYTE	R_FRAME	W_FRAME	T_FRAME	TIME1	TIME2
1	W2K3x64	9	0	*	*	1347	*	*	*	*	*	*	*	219.14	31.77
2	W2K8x86	9	0	*	*	105	*	*	*	*	*	*	*	7118.14	25.63
3	RH52x86	9	0	*	*	57	*	*	*	*	*	*	*	7800.28	19.88
4	RH52x64	9	0	*	*	88	*	*	*	*	*	*	*	6861.66	18.26

[PHYSICAL_CPU_DETAIL]

CPU#	CORE#	I_ALL	I_NIC	I_HBA	I_USB	I_IPI	I_TIM	I_OTH	I_USED	I_USED%
0	0	4097	7	99	*	1731	2260	0	15	0.31
1	0	3388	9	99	*	1578	1647	55	12	0.25
2	1	2088	12	99	*	1009	968	0	6	0.12
3	1	1845	4	99	*	259	1483	0	9	0.19
4	2	2763	7	99	*	779	1878	0	10	0.21
5	2	3155	12	99	*	1348	1696	0	10	0.21
6	3	1883	7	99	*	824	953	0	5	0.10
7	3	1515	10	99	*	495	911	0	5	0.10
8	4	1400	10	99	*	143	1148	0	7	0.15
9	4	1597	11	100	*	440	1046	0	6	0.12
10	5	1774	9	101	*	386	1278	0	8	0.17
11	5	2179	12	101	*	1031	1035	0	6	0.12
12	6	1342	4	99	*	471	768	0	5	0.10
13	6	1023	10	99	*	131	783	0	5	0.10
14	7	1218	11	99	*	278	830	0	5	0.10
15	7	1347	10	99	*	364	874	0	5	0.10

[LOGICAL_CPU_DETAIL]

L#	NAME	CPU#	X_ALL	X_MM1	X_MM2	X_MM3	X_IOP	X_IPI	X_EXTG	X_EXTH	X_HALT1	X_HALT2	X_OTH	X_USED	X_USED%
1	W2K3x64	0	312314	0	0	2095	138189	0	2	0	0	0	310217	1838	76.71
1	W2K3x64	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
1	W2K3x64	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
1	W2K3x64	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
2	W2K8x86	0	21194	4641	0	90	7758	253	203	0	221	2142	16039	113	64.94
2	W2K8x86	1	10622	347	0	144	647	4458	11	0	239	23	9881	70	23.49
2	W2K8x86	2	21083	0	0	0	8610	5	121	0	247	3002	20715	99	67.35
2	W2K8x86	3	21416	4659	0	279	7948	183	196	0	236	2154	16046	112	40.88
3	RH52x86	0	7074	2091	0	237	2092	59	53	0	1970	12	2723	84	46.67
3	RH52x86	1	4751	1067	0	2217	10	54	7	0	979	4	481	48	18.90
3	RH52x86	2	2524	1078	0	23	0	62	10	0	1036	5	377	41	32.28
3	RH52x86	3	2609	1087	0	52	0	73	12	0	1025	2	433	33	19.08
4	RH52x64	0	16945	2150	0	6099	4708	120	79	1	1766	40	6850	112	23.33
4	RH52x64	1	4626	1089	0	1847	130	65	14	0	1016	23	660	39	25.49
4	RH52x64	2	3372	1133	0	171	0	112	23	0	1009	40	1036	37	16.16
4	RH52x64	3	3545	1127	0	188	0	111	25	1	640	44	1564	30	2.78
15	NO_NAME	0	771	0	0	0	452	0	18	0	19	0	734	4	66.67
15	NO_NAME	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
15	NO_NAME	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
15	NO_NAME	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00

表 8 統計情報レコード

レコード	意味	レコード数
MONITORING_INFORMATION	統計情報採取に関わる情報を示す	1
SYSTEM_CONFIGURATION	HVM システム情報を表示する	1
LPAR_CONFIGURATION	LPAR 構成の情報を表示する	定義 LPAR 数 (※1)
SYSTEM_USAGE_SUMMARY	HVM のリソースの使用状況を表示する	4
SYSTEM_CPU_USAGE	HVM の CPU 使用状況を表示する	4
SYSTEM_MEM_USAGE	HVM のメモリ使用状況を表示する	2
LPAR_CPU_USAGE	LPAR の CPU 使用状況を表示する	Activate LPAR 数 (※2)
PHYSICAL_CPU_USAGE	物理層の CPU 使用状況を表示する	物理 CPU のコア数
PHYSICAL_NIC_USAGE	物理層の NIC 使用状況を表示する	物理 NIC ポート数
PHYSICAL_HBA_USAGE	物理層の HBA 使用状況を表示する	物理 HBA ポート数 (※3)
LOGICAL_CPU_USAGE	論理層の CPU 使用状況を表示する	論理 CPU 数 (※2)
LOGICAL_NIC_USAGE	論理層の NIC 使用状況を表示する	論理 NIC ポート数 (※2) (※4)
LOGICAL_HBA_USAGE	論理層の HBA 使用状況を表示する	論理 HBA ポート数 (※2) (※5)
PHYSICAL_CPU_DETAIL	物理層の CPU 使用状況(詳細)を表示する	物理 CPU 数
LOGICAL_CPU_DETAIL	論理層の CPU 使用状況(詳細)を表示する	論理 CPU 数 (※2)

※1: LPAR が 1 つも定義されていない場合はレコード名, フィールド名だけの出力となる

※2: Activate 状態の LPAR がひとつも無い場合はレコード名, フィールド名だけの出力となる

※3: HBA が 1 つも実装されていない場合はレコード名, フィールド名だけの出力となる

※4: 占有割り当ての NIC については、レコードが出力されない

※5: 占有割り当ての HBA については、レコードが出力されない

表 9 MONITORING_INFORMATION レコード

フィールド	意味	形式	桁数
HVM_ID	HVM の識別子	文字	16
PRODUCT	製品名称 "Virage△57-30(00-00)"	文字	64
CURR_DATE_TIME	今回の HvmPerfMon コマンドで統計情報を作成した日時	日時	29
PREV_DATE_TIME	前回の HvmPerfMon コマンドで統計情報を作成した日時	日時	29
INTERVAL_TIME	PREV_DATE_TIME から CURR_DATE_TIME までの時間	数値(秒)	3

日時の形式: YYYY/MM/DD△HH:MM:SS△GMT+09:00

表 10 SYSTEM_CONFIGURATION レコード

フィールド	意味	形式	桁数
COREs	LPAR に割り当て可能な物理 CPU のコア数	数値	3
CPUs	LPAR に割り当て可能な物理 CPU の個数 SMT が Enable の場合: スレッド数 SMT が Disable の場合: コア数 SMT: Simultaneous Multithreading	数値	3
NICs	サーバブレードに搭載されている NIC のポート数	数値	3
HBA s	サーバブレードに搭載されている HBA のポート数	数値	3
MEM	サーバブレードに搭載されているメモリ容量	数値(MB)	6

DEF_LPARs	定義されている LPAR の個数	数値	2
ACT_LPARs	Activate されている LPAR の個数	数値	2
CPU_CAP	サーバブレードに搭載されている CPU のトータルリソース (CORE_CAP*COREs)	数値(MHz)	6
NIC_CAP	サーバブレードに搭載されている NIC の最大転送速度の合計	数値(Mbps)	6
HBA_CAP	サーバブレードに搭載されている HBA の最大転送速度の合計	数値(Mbps)	6
CORE_CAP	CPU コア 1 個のリソース (基準周波数)	数値(MHz)	6
SYS_MEM	HVM のシステム層が使用しているメモリ容量	数値(MB)	6
LPAR_MEM	LPAR に割当て可能なメモリ容量	数値(MB)	6

表 11 LPAR_CONFIGURATION レコード

フィールド	意味	形式	桁数																
L#	定義されている LPAR の LPAR 番号	数値	2																
NAME	LPAR 名称	文字	31																
STATE	LPAR の状態 <table border="1" style="margin-left: 40px;"> <thead> <tr> <th>表示</th> <th>LPAR の状態</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ACT</td> <td>Activate 状態</td> </tr> <tr> <td>DEACT</td> <td>Deactivate 状態</td> </tr> <tr> <td>STANDBY</td> <td>Standby 状態</td> </tr> <tr> <td>ACTPEND</td> <td>Activate 処理中</td> </tr> <tr> <td>DEACTPEND</td> <td>Deactivate 処理中</td> </tr> <tr> <td>MIGRATION</td> <td>LPAR Migration 処理中</td> </tr> <tr> <td>FAILURE</td> <td>Failure 状態</td> </tr> </tbody> </table>	表示	LPAR の状態	ACT	Activate 状態	DEACT	Deactivate 状態	STANDBY	Standby 状態	ACTPEND	Activate 処理中	DEACTPEND	Deactivate 処理中	MIGRATION	LPAR Migration 処理中	FAILURE	Failure 状態	文字	10
表示	LPAR の状態																		
ACT	Activate 状態																		
DEACT	Deactivate 状態																		
STANDBY	Standby 状態																		
ACTPEND	Activate 処理中																		
DEACTPEND	Deactivate 処理中																		
MIGRATION	LPAR Migration 処理中																		
FAILURE	Failure 状態																		
MODE	CPU の割り当てモード S: 共有 D: 占有	文字	1																
COREs	LPAR の CPU のコア数	数値	3																
CPUs	LPAR の CPU の個数	数値	3																
NICs	LPAR に割り当てられている共有 NIC のポート数	数値	3																
HBA	LPAR に割り当てられている共有 HBA のポート数	数値	3																
MEM	LPAR のメモリ容量	数値(MB)	6																
CPU_CAP	LPAR に割り当てられた CPU リソース SMT が Enable の場合:(SYSTEM_CONFIGURATION の CORE_CAP ÷ 2 × CPUs) SMT が Disable の場合:(SYSTEM_CONFIGURATION の CORE_CAP × CPUs)	数値(MHz)	6																
CPU_MAX	LPAR で使用できる CPU リソースの最大 共有 CPU の場合は、MODE、CC、CPU_CAP の設定によって異なる CPU_MAX の決定 <table border="1" style="margin-left: 40px;"> <thead> <tr> <th>MODE</th> <th>CC</th> <th>CPU_CAP と SRV_CAP の大小関係</th> <th>CPU_MAX</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>D</td> <td>*</td> <td>-</td> <td>CPU_CAP の値</td> </tr> <tr> <td>S</td> <td>N</td> <td>-</td> <td>CPU_CAP の値</td> </tr> </tbody> </table>	MODE	CC	CPU_CAP と SRV_CAP の大小関係	CPU_MAX	D	*	-	CPU_CAP の値	S	N	-	CPU_CAP の値	数値(MHz)	6				
MODE	CC	CPU_CAP と SRV_CAP の大小関係	CPU_MAX																
D	*	-	CPU_CAP の値																
S	N	-	CPU_CAP の値																

	Y	CPU_CAP が小	CPU_CAP の値		
		CPU_SRV が小	CPU_SRV の値		
		<共有 CPU の割当て例 1> COREs CPU_CAP CPU_WIGHT CPU_SRV% CPU_SRV CC CPU_MAX LPAR1 1 3160 100 12.50 1580 N 3160 LPAR2 3 9480 700 87.50 2765 N 9480 <共有 CPU の割当て例 2> COREs CPU_CAP CPU_WIGHT CPU_SRV% CPU_SRV CC CPU_MAX LPAR1 1 3160 100 12.50 1580 Y 1580 LPAR2 3 9480 700 87.50 2765 N 9480 <共有 CPU の割当て例 3> COREs CPU_CAP CPU_WIGHT CPU_SRV% CPU_SRV CC CPU_MAX LPAR1 1 3160 100 50.00 6320 Y 3160 LPAR2 3 9480 100 50.00 6320 N 9480			
CPU_WIGHT		共有 CPU の LPAR 間で、CPU の奪い合いが発生した場合に保証される CPU リソースの重み (HVM スクリーンに表示されるサービス率と同じ値) 占有 CPU の LPAR では “*” が表示される		数値	3
CPU_SRV		共有 CPU の LPAR 間で、CPU の奪い合いが発生した場合に保証される CPU リソース 占有 CPU の LPAR では “*” が表示される		数値(MHz)	6
CPU_SRV%		共有 CPU の LPAR 間で、CPU の奪い合いが発生した場合に保証される CPU リソースの比率 (CPU_SRV ÷ SYSTEM_CPU_USAGE の SHR_LPAR 行の CAPACITY) 占有 CPU の LPAR では “*” が表示される		数値(%)	整数部:3 小数部:2
CPU_MAX%		CPU リソースの割当て上限の比率 (CPU_MAX ÷ CPU_CAP)		数値(%)	整数部:3 小数部:2
CPU_SRVs		共有 CPU の LPAR 間で、CPU の奪い合いが発生した場合に保証される CPU リソースのコア数 (CPU_SRV ÷ SYSTEM_CONFIGURATION の CORE_CAP) 占有 CPU の LPAR では “*” が表示される		数値	整数部:3 小数部:2
CC		共有 CPU のキャッピングの状態 N: キャッピング Disable Y: キャッピング Enable 占有 CPU の LPAR では “*” が表示される		文字	1
ID		CPU のアイドル検出の状態 N: アイドルの CPU リソースを他 LPAR に譲り渡さない Y: アイドルの CPU リソースを他 LPAR に譲り渡す		文字	1
NIC_CAP		LPAR で使用可能な NIC のトータル転送速度 (LPAR に割当てた NIC の PHYSICAL_NIC_USAGE の CAPACITY の合計)		数値(Mbps)	6
HBA_CAP		LPAR で使用可能な HBA のトータル転送速度 (LPAR に割当てた HBA の PHYSICAL_HB_USAGE の CAPACITY の合計)		数値(Mbps)	6
AFFINITY		LPAR で使用可能な物理 CPU の番号リスト 常に “*” が表示される		文字	32
INFORMATION		OS 種を以下の組合せで出力 ・Windows または Linux ・32 ビットモードまたは 64 ビットモード 例: “Windows (x86)” 、 “Linux (x64)” EFI 走行中の LPAR では、“*” が表示される。また、OS 種が		文字	64

	不明な場合は “*” が表示される。		
--	--------------------	--	--

表 12 SYSTEM_USAGE_SUMMARY レコード

フィールド	意味	形式	桁数
NAME	リソースの識別子 CPU: CPU MEM: メモリ NIC: NIC HBA: HBA	文字	3
CAPACITY	リソースの合計 CPU: CPU コアの周波数 MEM: メモリ容量 NIC: NIC の転送速度 HBA: HBA の転送速度	数値(MHz) 数値(MB) 数値(Mbps)	6
USED	使用したリソースの合計 リソース識別子が HBA では “*” が表示される	数値(MHz) 数値(MB) 数値(Mbps)	6
UNUSED	未使用リソースの合計 リソース識別子が HBA では “*” が表示される	数値(MHz) 数値(MB) 数値(Mbps)	6
INSUFF	不足しているリソースの合計 CPU: CPU の周波数 999999を超えた場合は 999999 が表示される MEM: “*” が表示される NIC: “*” が表示される HBA: “*” が表示される	数値(MHz) 数値(MB) 数値(Mbps)	6
USED%	使用されたリソースの比率 (USED ÷ CAPACITY) HBA: “*” が表示される	数値(%)	整数部: 3 小数部: 2
UNUSED%	使用されなかったリソースの比率 (UNUSED ÷ CAPACITY) HBA: “*” が表示される	数値(%)	整数部: 3 小数部: 2
INSUFF%	不足しているリソースの比率 CPU: (INSUFF ÷ CAPACITY) 999.99%を超えた場合は 999.99 が表示される MEM: “*” が表示される NIC: “*” が表示される HBA: “*” が表示される	数値(%)	整数部: 3 小数部: 2

表 13 SYSTEM_CPU_USAGE レコード

フィールド	意味	形式	桁数
NAME	HVM システムの識別子 SYS1: HVM のシステム層(共有 NIC 以外)を示す	文字	8

	SYS2:HVM のシステム層(共有 NIC)を示す SHR_LPAR: 共有 CPU を使用する全 LPAR を示す DED_LPAR: 占有 CPU を使用する全 LPAR を示す		
COREs	HVM システムが使用できる CPU のコア数 SYS1: 物理 CPU コア数 SYS2: 物理 CPU コア数 SHR_LPAR: 共有モードで動作している物理 CPU のコア数 DED_LPAR: 固有モードで動作している物理 CPU のコア数	数値	3
CPUs	HVM システムが使用できる CPU の個数 SYS1: 物理 CPU の個数 SYS2: 物理 CPU の個数 SHR_LPAR: 共有モードで動作している物理 CPU の個数 DED_LPAR: 固有モードで動作している物理 CPU の個数	数値	3
CAPACITY	LPAR で使用された CPU リソース SYS1: "*" が表示される SYS2: "*" が表示される SHR_LPAR: 共有モード CPU のリソース DED_LPAR: 固有モード CPU のリソース	数値	3
USED	HVM システムが使用した CPU リソース	数値(MHz)	6
USED%	HVM システムが使用した CPU リソースの比率 (USED÷(SYSTEM_CONFIGURATION の CPU_CAP))	数値(%)	整数部:3 小数部:2
USED_COREs	HVM システムが使用した CPU リソースのコア数 (USED÷(SYSTEM_CONFIGURATION の CORE_CAP))	数値	整数部:2 小数部:2
MODE_USED%	LPAR が使用した CPU リソースの比率(CPU 割当てモードベース) SYS1: "*" が表示される SYS2: "*" が表示される SHR_LPAR:(USED÷CAPACITY) DED_LPAR:(USED÷CAPACITY)	数値(%)	整数部:3 小数部:2

表 14 SYSTEM_MEM_USAGE レコード

フィールド	意味	形式	桁数
NAME	HVM コンポーネントの識別子 SYS:HVM のシステム層を示す LPAR: LPAR 層を示す	文字	8
USED	使用しているメモリの容量	数値(MB)	6
USED%	使用メモリの比率 (USED÷(SYSTEM_CONFIGURATION の MEM))	数値(%)	整数部:3 小数部:2
LPAR_USED%	使用メモリの比率 SYS: "*" が表示される LPAR:(USED÷(SYSTEM_CONFIGURATION の LPAR_MEM))	数値(%)	整数部:3 小数部:2

表 15 LPAR_CPU_USAGE レコード

フィールド	意味	形式	桁数
L#	LPAR 番号	数値	2
NAME	LPAR 名称	文字	31
USED	LPAR で使用した CPU リソース	数値(MHz)	6
ROB	命令実行が中断された CPU リソース-1	数値(MHz)	6
DELAY	命令実行が中断された CPU リソース-2	数値(MHz)	6

COREs	LPAR で使用した CPU コア数 (USED÷(SYSTEM_CONFIGURATION の CORE_CAP))	数値	整数部:2 小数部:2
HST_USED%	CPU 使用率(全 CPU ベース) (USED÷(SYSTEM_CONFIGURATION の CPU_CAP))	数値(%)	整数部:3 小数部:2
SHR_USED%	CPU 使用率 共有 CPU の LPAR では、(USED÷(SYSTEM_CPU_USAGE の SHR_LPAR 行の CAPACITY)) 占有 CPU の LPAR では “*” が表示される	数値(%)	整数部:3 小数部:2
SRV_USED%	CPU 使用率(サービス率ベース) (USED÷(LPAR_CONFIGURATION の該当 LPAR の CPU_SRV)) 占有 CPU の LPAR では “*” が表示される	数値(%)	整数部:3 小数部:2
USED%	LPAR で使用した CPU リソースの比率 (USED÷(LPAR_CONFIGURATION の該当 LPAR の CPU_CAP)) (USED% + ROB% + DELAY% + IDLE% + IOW% + NIOW% = 100)	数値(%)	整数部:3 小数部:2
ROB%	中断状態となった CPU リソース-1 の比率 (ROB÷(LPAR_CONFIGURATION の該当 LPAR の CPU_CAP))	数値(%)	整数部:3 小数部:2
DELAY%	中断状態となった CPU リソース-2 の比率 (DELAY÷(LPAR_CONFIGURATION の該当 LPAR の CPU_CAP))	数値(%)	整数部:3 小数部:2
IDLE%	アイドル状態となった CPU リソースの比率 (IDLE÷(LPAR_CONFIGURATION の該当 LPAR の CPU_CAP))	数値(%)	整数部:3 小数部:2
IOW%	I/O 待ち状態となった CPU リソースの比率 (IOW÷(LPAR_CONFIGURATION の該当 LPAR の CPU_CAP))	数値(%)	整数部:3 小数部:2
NIOW%	その他イベント待ち状態となった CPU リソースの比率 (NIOW÷(LPAR_CONFIGURATION の該当 LPAR の CPU_CAP))	数値(%)	整数部:3 小数部:2
G_RUN%	ゲスト OS 視点(見かけ上)の CPU 使用率 (G_RUN÷(LPAR_CONFIGURATION の該当 LPAR の CPU_CAP)) (G_RUN% + G_IDLE% = 100)	数値(%)	整数部:3 小数部:2
G_IDLE%	ゲスト OS 視点(見かけ上)の CPU 未使用率	数値(%)	整数部:3 小数部:2
OVER%	CPU リソース不足によるオーバーヘッドの増加 ((ROB% + DELAY%)÷USED%)	数値(%)	整数部:3 小数部:2

表 16 PHYSICAL_CPU_USAGE レコード

フィールド	意味	形式	桁数												
CORE#	CPU のコア番号	数値	3												
CAPACITY	CPU コアのリソース (SYSTEM_CONFIGURATION の CORE_CAP の値)	数値(MHz)	6												
MODE	CPU コアの割り当てモード S:共有 D:占有 “*”:プロセッサ故障を示す SMT Enable の場合、Thread の割当て状態に依存します。 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th colspan="2">同一 CPU コアの Thread 割当て状態</th> <th>MODE</th> </tr> <tr> <th>#0</th> <th>#1</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>占有</td> <td>占有</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>占有</td> <td>共有</td> <td>S</td> </tr> </tbody> </table>	同一 CPU コアの Thread 割当て状態		MODE	#0	#1		占有	占有	D	占有	共有	S	文字	1
同一 CPU コアの Thread 割当て状態		MODE													
#0	#1														
占有	占有	D													
占有	共有	S													

	<table border="1"> <tr> <td>共有</td> <td>占有</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>共有</td> <td>共有</td> <td>S</td> </tr> </table>	共有	占有	S	共有	共有	S		
共有	占有	S							
共有	共有	S							
USED	使用した CPU リソース	数値(MHz)	6						
UNUSED	未使用の CPU リソース (CAPACITY=USED+UNUSED)	数値(MHz)	6						
USED%	使用した CPU リソースの比率 (USED÷CAPACITY)	数値(%)	整数部:3 小数部:2						
UNUSED%	未使用の CPU リソースの比率 (UNUSED÷CAPACITY)	数値(%)	整数部:3 小数部:2						
NAME	CPU の名称。SMBIOS で示される名称 空白を含む	文字	64						

表 17 PHYSICAL_NIC_USAGE レコード

フィールド	意味	形式	桁数
SID	NIC の搭載位置 Gxn: サーバブレード x のオンボード NICn Exn: サーバブレード x のメザニンスロット n nn: ライザースロット n Xxn: サーバブレード x の HVM の NICn ※1	文字	3
P#	NIC のポート 0~3	数字	1
CAPACITY	NIC の最大転送速度	数値(Mbps)	6
MODE	NIC の割り当てモード S: 共有割り当て D: 占有割り当て HVM の NIC は、常に“D”が表示される	文字	1
USED	NIC の使用量 占有 NIC では“*”が表示される	数値(Mbps)	6
UNUSED	NIC の未使用量 (CAPACITY- USED) 占有 NIC では“*”が表示される	数値(Mbps)	6
USED%	NIC の使用率 (USED÷CAPACITY) 占有 NIC では“*”が表示される	数値(%)	整数部:3 小数部:2
UNUSED%	NIC の未使用率 (100-USED%) 占有 NIC では“*”が表示される	数値(%)	整数部:3 小数部:2
REQ	一秒当たりの起動回数 常に“*”が表示される	数値(回/秒)	7
INT	一秒当たりの割込み回数	数値(回/秒)	7
R_BYTE	一秒当たりの受信バイト数 占有 NIC では“*”が表示される	数値(KB/秒)	7
S_BYTE	一秒当たりの送信バイト数 占有 NIC では“*”が表示される	数値(KB/秒)	7
T_BYTE	一秒当たりの送受信バイト数 占有 NIC では“*”が表示される	数値(KB/秒)	7

R_PACKET	一秒当たりの受信パケット数 占有 NIC では“*” が表示される	数値(個/秒)	7
S_PACKET	一秒当たりの送信パケット数 占有 NIC では“*” が表示される	数値(個/秒)	7
T_PACKET	一秒当たりの送受信パケット数 占有 NIC では“*” が表示される	数値(個/秒)	7
NAME	NIC の名称 HVM スクリーンに表示される名称と同じ	文字	31

※1: HVM 管理専用の NIC を示し、BS2000 で実装されています。SVP、JP1/SC/BSM、HvmSh コマンドが Virtage と通信する際に使用されます。

表 18 PHYSICAL_HBA_USAGE レコード

フィールド	意味	形式	桁数
SID	HBA の搭載位置 Exn: サーバブレード x のメザニンスロット n nn: ライザースロット n	文字	3
P#	HBA のポート 0~3	数字	1
CAPACITY	HBA の最大転送速度 (HBA の種類によって異なる)	数値(Mbps)	6
MODE	HBA の割り当てモード S: 共有割り当て D: 占有割り当て	文字	1
USED	HBA の使用量 常に “*” が表示される	数値(Mbps)	6
UNUSED	HBA の未使用量 (CAPACITY- USED) 常に “*” が表示される	数値(Mbps)	6
USED%	HBA の使用率 (USED ÷ CAPACITY) 常に “*” が表示される	数値(%)	整数部: 3 小数部: 2
UNUSED%	HBA の未使用率 (100-USED%) 常に “*” が表示される	数値(%)	整数部: 3 小数部: 2
REQ	一秒当たりの起動回数 常に “*” が表示される	数値(回/秒)	7
INT	一秒当たりの割込み回数	数値(回/秒)	7
R_BYTE	一秒当たりの読み込みバイト数 常に “*” が表示される	数値(KB/秒)	7
W_BYTE	一秒当たりの書き込みバイト数 常に “*” が表示される	数値(KB/秒)	7
T_BYTE	一秒当たりの読み書きバイト数 常に “*” が表示される	数値(KB/秒)	7
R_FRAME	一秒当たりの読み込みフレーム数 常に “*” が表示される	数値(個/秒)	7
W_FRAME	一秒当たりの書き込みフレーム数 常に “*” が表示される	数値(個/秒)	7
T_FRAME	一秒当たりの読み書きフレーム数 常に “*” が表示される	数値(個/秒)	7
NAME	HBA の名称	文字	31

	HVM スクリーンに表示される名称と同じ		
--	----------------------	--	--

表 19 LOGICAL_CPU_USAGE レコード

フィールド	意味	形式	桁数
L#	LPAR 番号	数値	2
NAME	LPAR 名称	文字	31
CPU#	論理 CPU 番号	数値	2
USED	使用された CPU リソース	数値(MHz)	6
ROB	中断状態となった CPU リソース-1 (不足リソース)	数値(MHz)	6
DELAY	中断状態となった CPU リソース-2 (不足リソース)	数値(MHz)	6
IDLE	アイドル状態となった CPU リソース (未使用リソース)	数値(MHz)	6
IOW	I/O 待ち状態となった CPU リソース	数値(MHz)	6
NIOW	その他イベント待ち状態となった CPU リソース	数値(MHz)	6
G_RUN	ゲスト視点(見かけ上)の CPU リソース (USED+ROB)	数値(MHz)	6
USED%	使用された CPU リソースの比率 (USED÷論理 CPU リソース※1)	数値(%)	整数部:3 小数部:2
ROB%	中断状態となった CPU リソース-1 の比率 (ROB÷論理 CPU リソース※1)	数値(%)	整数部:3 小数部:2
DELAY%	中断状態となった CPU リソース-2 の比率 (DELAY÷論理 CPU リソース※1)	数値(%)	整数部:3 小数部:2
IDLE%	アイドル状態となった CPU リソースの比率 (IDLE÷論理 CPU リソース※1)	数値(%)	整数部:3 小数部:2
IOW%	I/O 待ち状態となった CPU リソースの比率 (IOW÷論理 CPU リソース※1)	数値(%)	整数部:3 小数部:2
NIOW%	その他イベント待ち状態となった CPU リソースの比率 (NIOW÷論理 CPU リソース※1)	数値(%)	整数部:3 小数部:2
G_RUN%	ゲスト OS 視点(見かけ上)の CPU 使用率 (G_RUN÷論理 CPU リソース※1) (G_RUN% + G_IDLE% = 100)	数値(%)	整数部:3 小数部:2
G_IDLE%	ゲスト OS 視点(見かけ上)の CPU 未使用率	数値(%)	整数部:3 小数部:2
OVER%	CPU リソース不足による予想オーバヘッド ((ROB% + DELAY%)÷USED%)	数値(%)	整数部:3 小数部:2

※1: 論理 CPU リソース

SMT Enable の場合:(SYSTEM_CONFIGURATION の CORE_CAP ÷ 2)

SMT Disable の場合:(SYSTEM_CONFIGURATION の CORE_CAP)

表 20 LOGICAL_NIC_USAGE レコード

フィールド	意味	形式	桁数
L#	LPAR 番号	数値	2
NAME	LPAR 名称	文字	31
SID	NIC の搭載位置 Gxn: サーバブレード x のオンボード NICn Exn: サーバブレード x のメザニンスロット n nn: ライザー slots n	文字	3
P#	NIC のポート	数字	1

	0~3		
USED	NIC の使用量	数値(Mbps)	6
USED%	NIC の使用率 (USED ÷ (PHYSICAL_NIC_USAGE の CAPACITY))	数値(%)	整数部:3 小数部:2
REQ	一秒当たりの起動回数	数値(回/秒)	7
INT	一秒当たりの割込み回数	数値(回/秒)	7
R_BYTE	一秒当たりの受信バイト数	数値(KB/秒)	7
S_BYTE	一秒当たりの送信バイト数	数値(KB/秒)	7
T_BYTE	一秒当たりの送受信バイト数 (T_BYTE=R_BYTE+S_BYTE)	数値(KB/秒)	7
R_PACKET	一秒当たりの受信パケット数	数値(個/秒)	7
S_PACKET	一秒当たりの送信パケット数	数値(個/秒)	7
T_PACKET	一秒当たりの送受信パケット数 (T_PACKET=R_PACKET+S_PACKET)	数値(個/秒)	7
TIME1	平均 I/O 動作時間 1 1 秒以上の場合、999999.99 を表示	数値(μ 秒)	整数部:6 小数部:2
TIME2	平均 I/O 動作時間 2 1 秒以上の場合、999999.99 を表示	数値(μ 秒)	整数部:6 小数部:2

表 21 LOGICAL_HBA_USAGE レコード

フィールド	意味	形式	桁数
L#	LPAR 番号	数値	2
NAME	LPAR 名称	文字	31
SID	HBA の搭載位置 Exn: サーバブレード x のメザニンスロット n nn: ライザー スロット n	文字	3
P#	HBA のポート 0~3	数字	1
USED	HBA の使用量 常に "*" が表示される	数値(Mbps)	6
USED%	HBA の使用率 (USED ÷ (PHYSICAL_HBA_USAGE の CAPACITY)) 常に "*" が表示される	数値(%)	整数部:3 小数部:2
REQ	一秒当たりの起動回数 常に "*" が表示される	数値(回/秒)	7
INT	一秒当たりの割込み回数	数値(回/秒)	7
R_BYTE	一秒当たりの読み込みバイト数 常に "*" が表示される	数値(KB/秒)	7
W_BYTE	一秒当たりの書き込みバイト数 常に "*" が表示される	数値(KB/秒)	7
T_BYTE	一秒当たりの読み書きバイト数 (T_BYTE=R_BYTE+W_BYTE) 常に "*" が表示される	数値(KB/秒)	7
R_FRAME	一秒当たりの読み込みフレーム数 常に "*" が表示される	数値(個/秒)	7
W_FRAME	一秒当たりの書き込みフレーム数 常に "*" が表示される	数値(個/秒)	7
T_FRAME	一秒当たりの読み書きフレーム数 (T_FRAME=R_FRAME+W_FRAME)	数値(個/秒)	7

	常に“*”が表示される		
TIME1	平均 I/O 動作時間 1 1 秒以上の場合は、999999.99 を表示	数値(μ 秒)	整数部:6 小数部:2
TIME2	平均 I/O 動作時間 2 1 秒以上の場合は、999999.99 を表示	数値(μ 秒)	整数部:6 小数部:2

表 22 PHYSICAL_CPU_DETAIL レコード

フィールド	意味	形式	桁数
CPU#	CPU 番号 SMT が Enable の場合:スレッドの通し番号 SMT が Disable の場合:コアの通し番号	数値	3
CORE#	CPU のコア番号	数値	3
I_ALL	CPU の割り込みイベントの発生頻度 (I_ALL=I_NIC+I_HBA+I_USB+I_IPI+I_TIM+I_OTH)	数値(回/秒)	6
I_NIC	CPU の NIC 割り込みイベントの発生頻度	数値(回/秒)	6
I_HBA	CPU の HBA 割り込みイベントの発生頻度	数値(回/秒)	6
I_USB	CPU の USB 割り込みイベントの発生頻度 常に“*”が表示される	数値(回/秒)	6
I_IPI	CPU の IPI 割り込みイベントの発生頻度	数値(回/秒)	6
I_TIM	CPU のタイマ割り込みイベントの発生頻度	数値(回/秒)	6
I_OTH	CPU のその他デバイスの割り込みイベントの発生頻度	数値(回/秒)	6
I_USED	割り込み時使用 CPU リソース	数値(MHz)	6
I_USED%	割り込み時使用 CPU リソースの比率 (I_USED÷SYSTEM_CONFIGURATION の CORE_CAP)	数値(%)	整数部:3 小数部:2

表 23 LOGICAL_CPU_DETAIL レコード

フィールド	意味	形式	桁数
L#	LPAR 番号	数値	2
NAME	LPAR 名称	文字	31
CPU#	論理 CPU 番号	数値	2
X_ALL	論理 CPU の HVM イベントの発生頻度 (X_ALL= X_MM1 + X_MM2 + X_MM3 + X_IOP + X_IPI + X_EXTG + X_EXTH + X_HALT + X_OTH)	数値(回/秒)	7
X_MM1	論理 CPU の HVM イベント(MMIO1)の発生頻度	数値(回/秒)	7
X_MM2	論理 CPU の HVM イベント(MMIO2)の発生頻度	数値(回/秒)	7
X_MM3	論理 CPU の HVM イベント(MMIO3)の発生頻度	数値(回/秒)	7
X_IOP	論理 CPU の HVM イベント(I/O Port)の発生頻度	数値(回/秒)	7
X_IPI	論理 CPU の HVM イベント(IPI)の発生頻度	数値(回/秒)	7
X_EXTG	論理 CPU の HVM イベント(Guest EX)の発生頻度	数値(回/秒)	7
X_EXTH	論理 CPU の HVM イベント(Host EX)の発生頻度	数値(回/秒)	7
X_HALT1	論理 CPU の HVM イベント(HALT1)の発生頻度	数値(回/秒)	7
X_HALT2	論理 CPU の HVM イベント(HALT2)の発生頻度	数値(回/秒)	7
X_OTH	論理 CPU の HVM イベント(その他)の発生頻度	数値(回/秒)	7
X_USED	論理 CPU の HVM イベントに要した CPU リソース	数値(MHz)	6
X_USED%	論理 CPU の HVM イベントに要した CPU リソースの比率 (X_USED÷LOGICAL_CPU_USAGE レコードの USED)	数値(%)	整数部:3 小数部:2

制限事項

以下の機能の状態(有効/無効)によって、表示される CPU の周波数の値は変化しません。

- ・ 電力キャッピング機能
- ・ CPU Turbo 機能

LOGICAL_NIC_USAGEレコードのUSEDは、NICの最大データ転送を超え、その結果、USED%が100%を超える場合があります。この現象は、当該共有NICを使用したLPAR間のネットワーク通信が行われた場合に発生します。

CPUのSMT(Simultaneous Multithreading)機能を有効にした場合、以下のフィールドは、SMTが無効のときの値の最大2倍の値を示します。ただし、LPARの性能が2倍になることを示すものではありません。

レコード	フィールド
SYSTEM_CONFIGURATION	CPU_CAP CORE_CAP
LPAR_CONFIGURATION	CPU_CAP CPU_MAX CPU_SRV
SYSTEM_USAGE_SUMMARY	CAPACITY USED UNUSED INSUFF
SYSTEM_CPU_USAGE	CAPACITY USED
PHYSICAL_CPU_USAGE	CAPACITY USED UNUSED

注意事項

HVM統計情報の表示のHVMインタフェースの時間間隔(サンプリングインタバル時間)は、1秒~10分の範囲で利用できます。サンプリングインタバル時間が1秒より短いと、正しいHVM統計情報が表示されない場合があります。サンプリングインタバル時間が10分を越えると、HvmShコマンドはコード0x101F0002で終了します。この場合は、もう一度、実行してください。サンプリングインタバル時間は5秒以上にすることを推奨します。

HVM統計情報表示のHVMインタフェースを初めて実行するとHvmShコマンドはコード0x101F0001で終了しますので、もう一度、実行してください。

LPARの構成が変更された、あるいはLPARの状態が変化すると、HvmShコマンドはコード0x101F002xで終了する場合があります。この場合は、もう一度、実行してください。

- ・LPARのActivateやDeactivate、またはFail
- ・NICの割当てモード(占有/共有)の変更

サポートマップ

HvmSh コマンドの利用できる機能とバージョンを示します。

表 23 HvmSh コマンドのサポートマップ

オプション	HvmSh コマンドバージョン		
	1.0	3.x	4.x
HvmSh コマンドの最大文字数	127	127	1024
実行結果メッセージでの HvmSh コマンドバージョン出力	-	-	○
-srcip オプション	-	-	○

○: 利用可能 -: 利用不可

表 24 HVM インタフェースのサポートマップ

HVM インタフェース		HvmSh コマンドバージョン			前提となる HVM バージョン
		1.0	3.x	4.x	
get	ActInhibit	-	○	○	56-00 以降
set	ActInhibit	-	○	○	56-00 以降
get	RelativeSlot	-	○	○	56-00 以降
get	VfcWWN	-	○	○	56-00 以降
set	VfcWWN	-	○	○	56-00 以降
get	AutoVnicMac	-	○	○	56-00 以降
set	AutoVnicMac	-	○	○	56-00 以降
get	LPARRtcDiff	-	○	○	56-00 以降
set	LPARRtcDiff	-	○	○	56-00 以降
get	vfcidChangeInhibit	-	○	○	56-00 以降
set	vfcidChangeInhibit	-	○	○	56-00 以降
opr	TakeHvmDump	-	○	○	56-10 以降
opr	StartGuestDump	-	○	○	56-10 以降
opr	CancelGuestDump	-	○	○	56-10 以降
get	GuestDumpProgress	-	○	○	56-10 以降
get	HvmPerfMon	-	-	○	57-30 以降
上記以外		○	○	○	54-01 以降

○: 利用可能 -: 利用不可

バージョンアップ時の注意事項

- HvmSh コマンドを 3.x 以前のバージョンから 4.x 以降のバージョンにアップすると、出力の一行目に HvmSh コマンドのバージョンが出力されるようになります。出力文字を判定している上位のプログラム(シェルなど)があれば処理を確認し、修正が必要であれば、両バージョンに対応できるように修正するか、アップ後のバージョンに対応するように修正してください。

HvmSh コマンドバージョンが 3.x 以前

```
HvmSh△Completed. △2007/05/01△12:12△Return: △0x00000000
HvmSh△Failed. △△△△2007/05/01△12:12:12△Return: △0x02020001△Msg: Response△
HvmSh△Accepted. △△2007/05/01△12:12:12△Return: △0x00000019
```

HvmSh コマンドバージョンが 4.0 以降

```
HvmSh (Version 4.0) △Completed. △2007/05/01△12:12:12△Return: △0x00000000
HvmSh (Version 4.0) △Failed. △△△△2007/05/01△12:12:12△Return: △0x02020001△Msg: Response△
HvmSh (Version 4.0) △Accepted. △△2007/05/01△12:12:12△Return: △0x00000019
```